

第2期山形県スポーツ推進計画 (案)

令和7年 月
山 形 県

目 次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画の期間	2
4	計画の対象とするスポーツ等の範囲	2
第2章	スポーツをめぐる主な状況等	3
1	社会状況の変化	3
2	政府等の動向	4
3	本県の動き	4
4	第1期計画の指標等の状況	7
第3章	本計画の目指す姿と基本方針等	9
1	本計画の目指す姿	9
2	基本方針	9
3	施策展開の方向等	11
第4章	施策の展開	13
	基本方針1 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現	13
	(1) スポーツを楽しむ機会の創出	13
	(2) スポーツを楽しむ環境の整備	20
	基本方針2 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上	25
	(1) 多様な主体が連携した子どものスポーツ機会の充実	25
	(2) 学校におけるスポーツ活動の充実	30
	基本方針3 国内外で活躍できるアスリートの育成等と競技力の向上	35
	(1) 次世代を担うアスリートの発掘・育成	35
	(2) トップアスリートの育成・強化	39
	基本方針4 スポーツによる共生社会の実現と地域活性化の推進	43
	(1) スポーツを通じた誰もが参画できる共生社会の実現	43
	(2) スポーツを通じた地域活性化の推進	48
第5章	推進体制	54
1	関係機関等との連携	54
2	施策の進行管理	55
<参考>	本計画の進捗状況を把握するための参考指標	56
【参考資料】		57

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

県では、「山形県スポーツ推進計画（スポーツやまがたドリームプラン）」（平成25年3月策定「山形県スポーツ推進計画」及び平成30年6月策定「山形県スポーツ推進計画〈後期改定計画〉」。以下「第1期計画」という。）を策定し、「山形の未来を拓くスポーツ文化の創造」を基本目標に掲げ、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進してきました。

また、平成31年3月には、スポーツの推進に関する基本理念を定め、県民の心身の健康の増進及び健康寿命の延伸を図り、健康で豊かな県民生活及び活力ある地域社会の実現を目的とする「山形県スポーツ推進条例」（以下「条例」という。）を制定しました。

この間、県においては、関係団体等と連携・協力しながら、第1期計画に基づき、生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進、トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立、スポーツを通じた活力ある地域社会の実現に取り組むなど、スポーツの推進に関する施策を着実に進めてきました。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を経て、スポーツを通じた健康の保持及び増進やストレス解消、交流促進などのスポーツの価値が再認識されるとともに、人口減少や少子化・高齢化の進行に伴うスポーツに参画する者の減少やスポーツ指導者をはじめとした担い手の不足など、スポーツをめぐる状況は大きく変化しています。

こうしたスポーツをめぐる状況の変化や、第1期計画に基づくこれまでの取り組みの成果・課題等を踏まえ、今後の本県におけるスポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、新たに「第2期山形県スポーツ推進計画」を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、条例第8条第1項の規定による「スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための計画（スポーツ推進計画）」として定めるとともに、スポーツ基本法第10条第1項に規定する「その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（地方スポーツ推進計画）」として位置付けるものです。

3 計画の期間

本計画の期間は、令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間とします。

4 計画の対象とするスポーツ等の範囲

本計画が対象とする「スポーツ」は、条例第2条第1号の規定を踏まえ、個人又は集団で行われる運動競技に加え、その他の身体活動（散歩、ダンス、健康のために行う体操、ハイキング、サイクリングその他これらに類するものを含む。）とします。

また、「スポーツ活動」は、同条第2号の規定を踏まえ、スポーツを行うこと、観戦すること、スポーツを行う者を指導すること、又は、スポーツの競技会その他の催しの運営に携わる活動とします。

第2章 スポーツをめぐる主な状況等

1 社会状況の変化

(1) スポーツの価値の再確認

新型コロナが5類感染症に移行し、スポーツ活動が活発に行われるようになったことにより、スポーツが私たちの生活や社会に与える重要な価値（例：健康の保持及び増進やストレス解消、交流促進など）が再確認されました。

(2) 人口減少と少子化・高齢化の進行

特に地方において人口減少や少子化・高齢化が進み、スポーツに参画する者や担い手が不足するなど、スポーツ環境の維持がますます困難になると見込まれています。

一方で、高齢化が急速に進行し、「人生100年時代」を迎える中、年齢を問わず生き生きと活躍できるよう、若い頃からライフステージに応じた健康づくりに取り組み、健康を保持及び増進し、健康寿命を延伸することが重要になっています。

(3) ライフスタイルや価値観の変化・多様化

働き方改革の推進やデジタル技術の発展等によるライフスタイルや価値観の変化により、「物の豊かさ」よりも「心の豊かさやゆとりある生活」を重視する人が増加するなど、人々の求める豊かさが多様化しています。

また、近年、身体的・精神的・社会的に幸福な状態を表す概念として「ウェルビーイング」という価値観が注目されており、スポーツがその実現に向けた手段の一つとして期待されています。

(4) デジタル技術の発展と活用

これまでにないスピードで、AIやビッグデータ、IoT、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）などの技術革新が進んでおり、これらの活用により、「する」「みる」「ささえる」それぞれの場面における新たなスポーツの発展が期待されています。

(5) SDGsの推進、多様性の尊重

持続可能な社会を目指し様々な分野で取り組みが進められている中、スポーツにおいても、健康やジェンダー平等などのSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みの推進や多様性の尊重が求められています。

2 政府等の動向

(1) スポーツ庁の発足

スポーツ基本法の制定や東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催等を背景とし、スポーツに関連する施策を総合的に推進するため、平成 27 年 10 月にスポーツ庁が創設されました。

(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催

新型コロナの世界的な感染拡大により、史上初めて開催が 1 年延期されたものの、オリンピックが令和 3 年 7 月 23 日から 8 月 8 日まで、パラリンピックが同年 8 月 24 日から 9 月 5 日までの日程で開催されました。

メダル獲得数は、オリンピックが金メダル 27 個を含む過去最高となる計 58 個、パラリンピックが金メダル 13 個を含む過去 2 番目となる計 51 個となりました。

また、57 年ぶりとなる日本での夏季大会として、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を 3 つの基本コンセプトとし、大会スタッフやボランティアなど多くの国民が参加しました。

(3) 第 3 期スポーツ基本計画の策定

第 2 期スポーツ基本計画期間中の出来事や社会状況の変化などを踏まえ、令和 4 年 3 月に第 3 期スポーツ基本計画が策定され、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間のスポーツ政策の目指すべき方向性等が示されました。



出典：スポーツ庁 HP

3 本県の動き

(1) 山形県スポーツコミッションの設立

国内外からのスポーツ大会、合宿等の誘致や受入支援、スポーツ施設・観光資源等に関する情報発信を行うとともに、スポーツツーリズムなどスポーツを核にした交流による地域活性化を図ること等を目的として、平成 30 年 10 月に山形県スポーツコミッションが設立されました。

(2) 山形県スポーツ推進条例の制定

スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、スポーツを通じて健康で豊かな県民生活と活力ある地域社会を実現することを目指し、平成 31 年 3 月に山形県スポーツ推進条例を制定しました。

(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに係る取組み

令和3年6月6日及び7日に、県内18市町を繋いで東京2020聖火リレーを行い、ゴール地点では聖火の到着を祝うセレブレーションを実施しました。また、同年8月12日から16日に実施したパラリンピック聖火フェスティバルでは、各市町村で伝統や文化、産業をPRする独自の手法で採火を実施するなどの取組みを行いました。

また、県と14市町が計15か国・地域のホストタウンに登録され、一部の自治体では現在でも相手国との交流が続いています。



上：本県における聖火リレー

右：ホストタウンとの交流（写真提供：村山市）



(4) 「やまがた雪未来国スポ」の開催

第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会「やまがた雪未来国スポ」を令和6年2月に本県で開催し、20年ぶりに本県がスキー競技で天皇杯順位第4位となりました（スケート・アイスホッケー競技も含めた冬季大会全体の天皇杯順位は第3位）。

本大会は、記録的な暖冬の影響で深刻な雪不足となりましたが、アルペン競技では、大会関係者をはじめ多くの方から、コース整備等において献身的な尽力をいただいたことにより、大会を開催することができました。



「やまがた雪未来国スポ」（写真撮影：山形新聞社）

(5) 部活動改革の推進

「生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」の両立に向けて、令和5年3月に「山形県における部活動改革のガイドライン」を策定し、中学校の休日の部活動を段階的に地域のクラブ活動へ展開する取組み等を進めています。

(6) 国際大会等における本県選手の活躍や県内プロスポーツチーム等の盛り上がり

北京2022オリンピックのスピードスケート男子500メートルで銅メダルを獲得した森重航選手、2023ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)に日本代表として出場し日本の優勝に貢献した中野拓夢選手、パリ2024オリンピックのレスリング女子76キログラム級で金メダルを獲得した鏡優翔選手など、本県にゆかりのある選手のオリンピック・パラリンピックをはじめとした国際大会等での活躍は、県民に元気と勇気を与えてくれました。

また、県内に拠点を置くプロスポーツチーム等(サッカー、バスケットボール、バレーボール等)の盛り上がりは、地域の絆や誇りを育むとともに、地域の活性化に貢献しています。



中野拓夢選手(山形県スポーツ栄光賞授与時)



鏡優翔選手(山形県県民栄誉賞贈呈時)

本県のプロスポーツチーム等



©MONTEDIO YAMAGATA



©Passlab Inc.



©Aranmare YAMAGATA

(7) 県の組織改編

令和6年度の組織改編において、観光や地域活性化などの視点を加えた総合的なスポーツ振興施策の推進等のため、スポーツに関する業務（学校体育を除く。）を教育局から観光文化スポーツ部に移管しました。

4 第1期計画の指標等の状況

山形県スポーツ推進計画<後期改定計画>においては、「生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進」「トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立」「スポーツを通じた活力ある地域社会の実現」の3つの基本方針を連動させながら各施策を展開してきました。

それぞれに応じ掲げた指標等の状況については、概ね以下のとおりです。

基本方針1 生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進

【施策目標】

ライフステージに応じ、楽しみながら「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進とその環境整備を行う。

項目		後期改定計画 策定時	最新値	
成人のスポーツ実施率（週1回以上）	60%	35.2% (H28)	33.6% (R6)	
成人のスポーツ実施率（週3回以上）	30%	16.7% (H28)	14.6% (R6)	
総合型地域スポーツクラブが行う活動への参加者数	増加させる	21,300人 (H29)	36,711人 (R5)	
子ども（小学生）のスポーツ実施率 （1日60分以上）	60%	44.7% (H29)	39.8% (R6)	
	参 考	小学生男子	54.7% (H29)	50.4% (R6)
	小学生女子	34.4% (H29)	29.2% (R6)	
スポーツや運動が「嫌い」・「やや嫌い」である中学生を減らす	10%以下	14.7% (H29)	14.5% (R6)	

- ・ スポーツ実施率については、新型コロナの影響により一時落ち込んだものの、新型コロナの5類感染症への移行後、その低下に歯止めがかかりつつあります。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ¹（以下「総合型クラブ」という。）においては、市町村からの高齢者介護予防事業等の受託等により会員以外の参加が増加しています。

¹ 人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。（出典：スポーツ庁 HP）

- ・ 県民が生涯にわたってその体力、年齢、適性、健康状態等に応じて身近にスポーツに親しみ、かつ、スポーツを楽しむことができるよう、引き続き、スポーツ活動を行う機会の提供や参加しやすい環境の整備等に取り組む必要があります。

基本方針2 トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立

【施策目標】

ジュニア期からトップレベルに至る体系的な人材の養成システムの構築及びスポーツ環境の整備により、国際大会や全国大会で活躍する選手を数多く育成する。

項目		後期改定計画 策定時	最新値・実績値
オリンピック・パラリンピックでのメダリスト	輩出	—	2名(R3, R6)
国体（国スポ）の天皇杯順位	全国20位台	31位（H29）	33位(R6)
インターハイ入賞数	夏季：40以上	60（H29）	40(R5)
	冬季：15以上	26（H29）	15(R5)

- ・ 北京2022冬季オリンピックにおいて、本県で活動を行っていた選手から待望のメダリストが輩出されました（スピードスケート競技男子500メートルにおいて森重航選手が銅メダルを獲得）。
- ・ 本県のスポーツ選手が国内外のスポーツ競技会等において優秀な成績を収められるよう、引き続き、各競技団体等と連携し計画的に選手や指導者を育成するなど本県の競技水準の向上を図るための施策を講じる必要があります。

基本方針3 スポーツを通じた活力ある地域社会の実現

【施策目標】

スポーツを通じた地域の活性化を目指し、地域資源、プロスポーツ及びスポーツイベント等の積極的な活用並びにアスリートの活躍の場の拡充を推進する。

項目		後期改定計画 策定時	実績値
ホストタウン交流事業への参加者数	8,000人	8,500人(H29)	10,732人(R3)

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックにおいては、新型コロナの影響を受けたものの、オンラインなど工夫を凝らして交流イベント等が開催されました。
- ・ スポーツ活動を通してさらなる地域活性化が図られるよう、引き続き、プロスポーツチーム等との連携や、スポーツによる魅力発信・イベントの開催、交流人口や関係人口の拡大に係る取組みを推進していく必要があります。

第3章 本計画の目指す姿と基本方針等

1 本計画の目指す姿

条例前文に掲げた本県の目指す姿が、本計画の目指す姿となります。

【目指す姿】

スポーツを通じた健康で豊かな県民生活と活力ある地域社会の実現

この目指す姿の実現に向けて、スポーツの推進に関する取組みを推進していきます。

2 基本方針

第2章の「スポーツをめぐる主な状況等」を踏まえ、(1)誰もがスポーツを楽しめる機会創出、環境整備の必要性、(2)子どもを取り巻くスポーツ環境の変化、(3)国際大会や全国大会における本県選手の更なる活躍の促進、(4)活力ある地域社会の実現に向けたスポーツの推進の4つの観点から、以下の基本方針を設定しました。

(1) 誰もがスポーツを楽しめる機会創出、環境整備の必要性

生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営めるよう、全ての人々がスポーツにアクセスできる社会の実現やライフステージに応じたスポーツ活動の推進等が必要です。

また、人生100年時代の到来等により、健康の保持及び増進や健康寿命の延伸を図るためのスポーツ活動の重要性が増大しています。



【基本方針1】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

(2) 子どもを取り巻くスポーツ環境の変化

少子化や部活動改革等により、子どもを取り巻くスポーツ環境は大きく変化しています。

そのような中、生涯にわたりたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さや規



律を尊ぶ態度、克己心等を育むため、子どもの時から運動に親しむことが重要です。また、学校、家庭、地域の連携や指導者の育成等により、スポーツの楽しさや意義・価値を実感することができる環境の整備を図るとともに、子どもの体力の向上に向けた取組みを一層推進することが必要です。

【基本方針2】 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上

(3) 国際大会や全国大会における本県選手の更なる活躍の促進

本県にゆかりのある選手が世界や全国の檜舞台で活躍することは、県民に明るい話題を提供するとともに、活力ある県勢発展に大きく寄与しています。

世界や全国の檜舞台で活躍できるトップアスリートを発掘・育成・強化するため、スポーツ団体や地域等との連携により、ジュニア期からトップレベルに至る体系的かつ戦略的な支援が必要です。



【基本方針3】 国内外で活躍できるアスリートの育成等と競技力の向上

(4) 活力ある地域社会の実現に向けたスポーツの推進

活力ある社会の実現のために多様性の尊重は重要であり、性別、障がいの有無、国籍等を問わず、県民誰もがスポーツに親しむことができ、スポーツを通して社会に参画できる環境の整備が必要です。

また、少子化・高齢化を伴う人口減少が進む中、本県のスポーツ資源を活用して、豊かな自然環境や観光資源など本県の魅力を県内外へ発信していくとともに、プロスポーツチーム等との連携やスポーツを通じた交流人口・関係人口の拡大等による地域活性化の取組みを推進していくことが必要です。



【基本方針4】 スポーツによる共生社会の実現と地域活性化の推進

3 施策展開の方向等

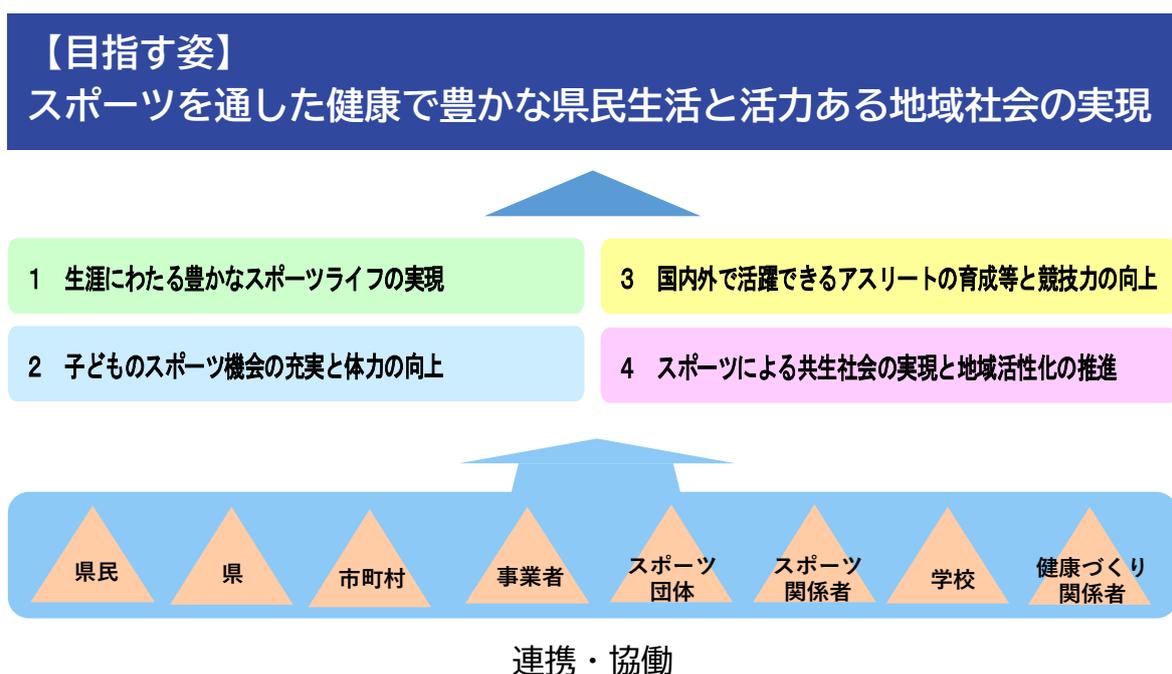
4つの基本方針を柱として、目指す姿の実現に向けた施策の展開に取り組んでいきます。

基本方針	施策展開の方向	施策
1 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現	(1) スポーツを楽しむ機会の創出	①ライフステージに応じたスポーツ機会の創出
		②スポーツを通じた健康増進
	(2) スポーツを楽しむ環境の整備	③スポーツ指導者等の育成とスポーツボランティア活動の普及・促進
		①スポーツにおける安全・安心の確保
2 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上	(1) 多様な主体が連携した子どものスポーツ機会の充実	②スポーツインテグリティ（誠実性、健全性、高潔性）の確保
		③学校体育施設・スポーツ施設等の整備・有効活用
	(2) 学校におけるスポーツ活動の充実	①幼児期から子どもが楽しく運動する取組みの推進
		②地域や関係団体等と連携した子どものスポーツ機会の充実
3 国内外で活躍できるアスリートの育成等と競技力の向上	(1) 次世代を担うアスリートの発掘・育成	①体育・保健体育授業の充実
		②地域や関係団体等と連携した部活動等の充実
	(2) トップアスリートの育成・強化	①「YAMAGATA ドリームキッズ」の発掘・育成
		②ジュニア期における一貫した指導体制に基づく育成・強化
4 スポーツによる共生社会の実現と地域活性化の推進	(1) スポーツを通じた誰もが参画できる共生社会の実現	①国際大会や全国大会等に向けた戦略的支援の充実・強化
		②トップアスリート育成に向けた優れた指導者の養成・確保
	(2) スポーツを通じた地域活性化の推進	③スポーツ医・科学やデジタル技術の有効活用
		①障がい者スポーツの推進
		②スポーツにおける女性の活躍推進
		①プロスポーツチーム等との連携
		②スポーツイベントの開催・スポーツツーリズム等を通じた交流の拡大や地域づくりの推進
		③地域のスポーツ資源を活用した地域スポーツの推進

<ライフステージと基本方針の主な関係等>

ライフステージ	主に関係する基本方針				スポーツの目的・効果（例）
	1	2	3	4	
幼 児 期					<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力・運動能力の向上 ・ 心身の健全な発達 ・ 社会適応能力・認知的能力の発達
学 齢 期					<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人間性の育成 ・ 技術の向上 ・ 自己実現、達成感の獲得
青年・壮年期					<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力の向上・維持 ・ 自己実現、達成感の獲得 ・ ストレス解消、リフレッシュ
中 年 期					<ul style="list-style-type: none"> ・ 趣味・余暇の充実 ・ 生活習慣病の予防、健康寿命の延伸 ・ コミュニティの形成、社会参加
高 齢 期					<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康寿命の延伸 ・ 身体機能・認知機能の維持 ・ 社会的つながり・生きがいの形成

<施策の展開方法（イメージ）>



第4章 施策の展開

基本方針1 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

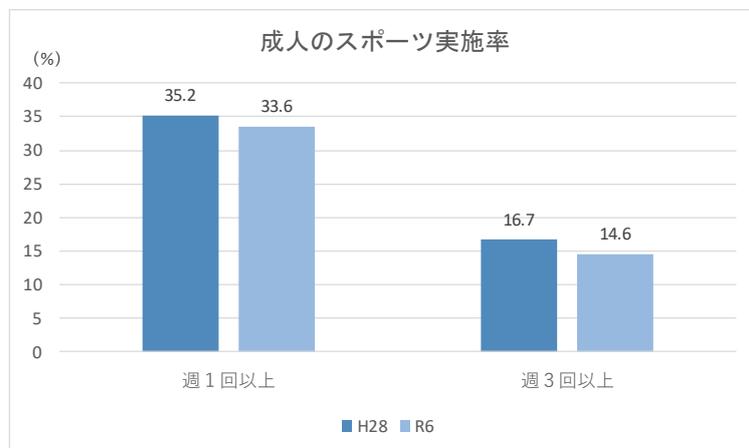
体力、年齢、適性、健康状態等に応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことにより、ウェルビーイングの向上が図られるよう、スポーツを楽しむ機会の創出・提供やスポーツ活動を行いやすい環境の整備等を行います。

<施策展開の方向>

(1) スポーツを楽しむ機会の創出

【現状と課題】

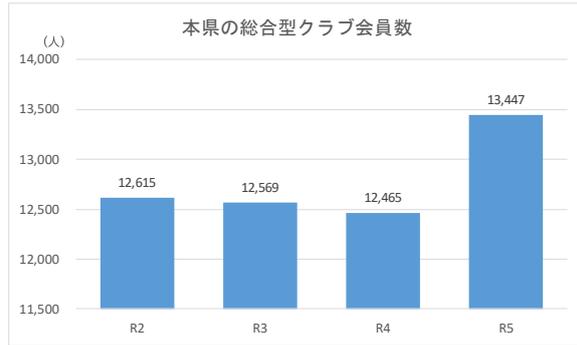
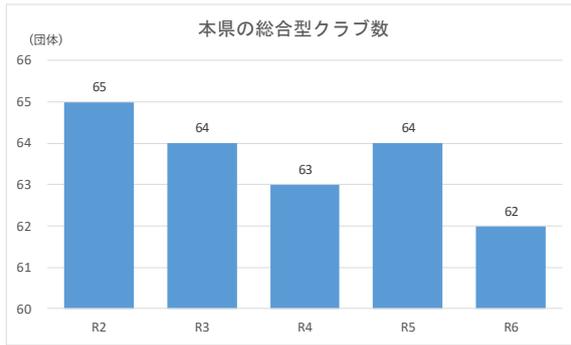
- 本県における成人のスポーツ実施率については、平成28年度は、週1回以上が35.2%、週3回以上が16.7%であったのに対し、令和6年度は、週1回以上が33.6%、週3回以上が14.6%となっています。新型コロナの影響と考えられる実施率の低下には歯止めがかかりつつあり、引き続き、スポーツ実施率の向上に向けた取組みを進める必要があります。



出典：
平成28年度及び令和6年度
「山形県県政アンケート調査」

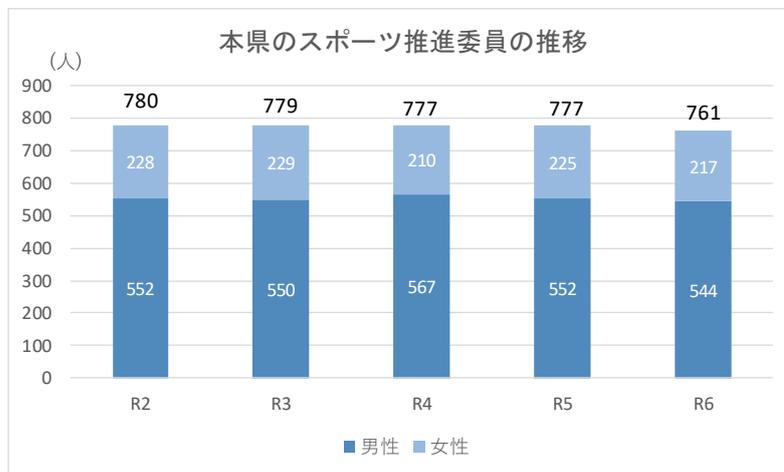
- 本県の総合型クラブについては、令和6年4月現在で62クラブが設立されており、会員数は新型コロナの収束等により令和5年度は増加に転じています。一方で、クラブ運営を担う人材や財源の確保などの課題もあることから、県では、広域スポーツセンター²を県内5か所に設置し、総合型クラブの設立や運営・活動の支援等を行っており、引き続きクラブ運営の安定化や地域課題解決に向けた取組みへ支援を行っていく必要があります。

² 各都道府県において広域市町村圏内の総合型クラブの創設や運営、活動とともに、県内におけるスポーツ活動全般について、効率的な支援を行う役割を担い設置されているもの。本県では、県内5箇所(県スポーツ振興課及び各教育事務所内)に設置。



出典：県観光文化スポーツ部調べ

- 各市町村のスポーツ推進委員³は、各地域におけるスポーツ推進の中心的な役割を担っています。近年は、高齢化や認知度不足などからスポーツ推進委員の数が減少傾向にあり、担い手の確保や質の維持・向上が必要です。



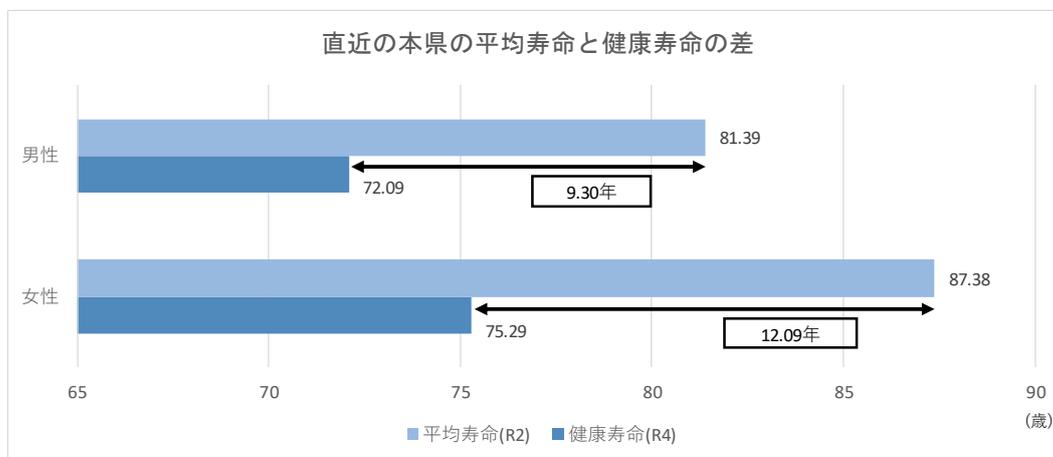
出典：
県観光文化スポーツ部調べ

- 本県スポーツの普及とその向上発展を図ることを目的として、競技スポーツで優秀な成績を取めた者及び生涯スポーツの振興に寄与した者等の功績を讃えるため、県スポーツ賞・小学校スポーツ優秀賞を授与しています。令和5年度については、県スポーツ賞を101名・7団体に、小学校スポーツ優秀賞を31名に授与したところであり、受賞者の功績を讃えることで、競技力向上の意欲を高めるとともに、県民のスポーツへの興味・関心の高まりにもつながっています。
- 医療技術の進歩などにより本県の平均寿命は延びていますが、直近の平均寿命と健康寿命⁴との間には男性で約9年、女性で約12年の差があります。「人生100年時代」の到来を見据え、年齢を問わず生き生きと活躍するためには、平均

³ スポーツ基本法第32条の規定により、市町村におけるスポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツ実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行うため、市町村から委嘱された者。

⁴ 日常生活に制限がない期間の平均。

寿命の延びを上回る健康寿命の延伸が大切であり、運動習慣の定着やロコモ⁵・フレイル⁶・介護予防の取組みが重要となっています。

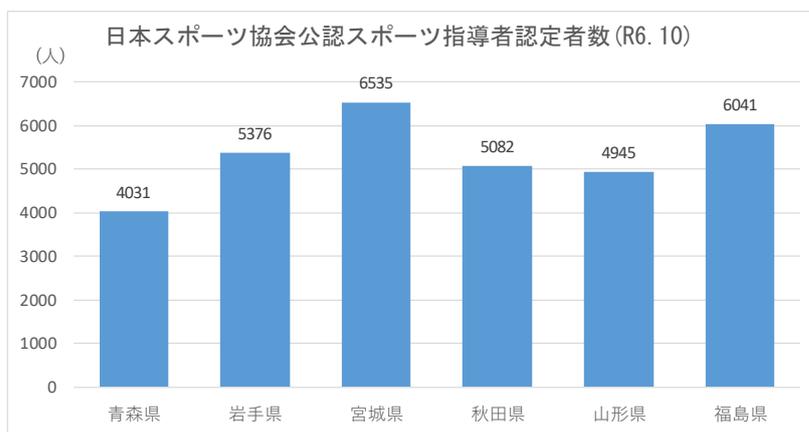


※ 都道府県別の平均寿命は5年ごと、健康寿命は3年ごとに公表されることから、それぞれ最新の公表値を比較しています。

出典： 平均寿命：厚生労働省「令和2年都道府県別生命表」(R4.12公表)

健康寿命：R6.12.24「健康日本21(第三次)推進専門委員会」資料

- スポーツ指導者等は、スポーツを「支える」役割を担っており、部活動の地域展開等に伴い、ますますその重要性は高まっていくことが予想されます。一方で、本県の令和6年10月現在の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者認定者数⁷は約5,000人となっており、公認スポーツ指導者資格の普及や人材の確保とともに、質の高い指導者等の育成と継続的なアップデートが必要です。



出典：日本スポーツ協会 HP

⁵ ロコモティブシンドロームの略。「運動器の障害のために立ったり歩いたりするための身体能力(移動機能)が低下した状態」のことをいい、ロコモが進行すると将来介護が必要になるリスクが高くなる。(出典:日本整形外科学会)

⁶ frailty の日本語訳として日本老年医学会が提唱した用語であり、健康を保つための配慮が今まで以上に必要な高齢者の状態を差し、加齢により心身の活力が低下し介護が必要になる手前の状況。

⁷ スポーツ指導者基礎資格、競技別指導者資格、メディカル・コンディショニング資格、フィットネス資格、マネジメント資格及び旧資格の認定者の合計。

- スポーツボランティアは、市町村主催のマラソン大会、プロスポーツチーム等のホームゲームをはじめ、各種スポーツ大会や合宿等の運営において、その役割や重要性が認識されており、令和6年2月に開催した「やまがた雪未来国スポ」においても多くのボランティアの方から尽力いただきました。さらなるスポーツ活動の推進のため、スポーツボランティアへの関心を高め参加への機運を醸成するなど、スポーツボランティアの普及・促進が必要となっています。

<施策>

① ライフステージに応じたスポーツ機会の創出

ア スポーツ活動の実態等を把握する調査研究を定期的実施・検証するとともに、関係部局やスポーツ関係者間で連携し、体力、年齢、適性、健康状態など県民のライフステージや多様なニーズに応じたスポーツ活動を促進します。

イ 県民がスポーツ・レクリエーション活動に親しむとともに、多くの人と交流を深め、スポーツ・レクリエーション活動に主体的・創造的に取り組む地域スポーツの推進を図ります。

ウ 地域住民の生涯にわたるスポーツ活動を推進するため、県内5か所の広域スポーツセンターにおいて、関係団体等との連携を促進するとともに、総合型クラブの育成・支援を行います。

エ 生涯スポーツの推進を図るため、県民との接点となるスポーツ推進委員の資質の維持・向上に努めます。

オ スポーツで優秀な成績を取めた者やスポーツの振興に貢献した者等の功績を讃えることで、スポーツへの興味関心を高めるとともに、スポーツ活動の促進に努めます。

[主な取組みの例]

➤ 市町村ごとのスポーツ実施率等の調査と結果の分析・活用

➤ 「県スポーツ・レクリエーション祭（競技会部門・ふれあい交流会部門）」の開催



県スポーツ・レクリエーション祭（左：男女混合綱引き、右：パタンク）

- 総合型クラブや生涯スポーツ関係者を対象とした各種セミナー等の実施やアドバイザー等による指導・助言
- スポーツ推進委員の資質向上を図るための県スポーツ推進委員研究大会の実施



県スポーツ推進委員研究大会（基調講演、実技）

- 山形県スポーツ賞及び山形県小学校スポーツ優秀賞による顕彰



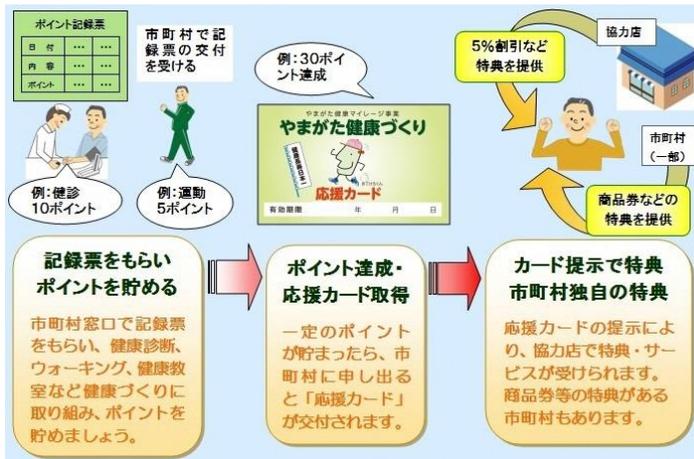
山形県スポーツ賞授与の様子

② スポーツを通じた健康増進

ア 県内民間事業所において、従業員の健康づくりを経営上の観点から戦略的に実践する「健康経営」の取組みの促進を図られるよう、ビジネスパーソンや事業所単位でのスポーツ参加機会の充実を図ります。

イ 運動に関心のない者も取り組みやすい環境づくりとして、「やまがた健康マイレージ事業⁸」の参加者拡大やスマートフォンのアプリなどを活用した運動のきっかけづくりを促進します。

⁸ 市町村等が実施する健康づくりに関する取組みに参加した場合ポイントが付与され、ポイントに応じて協力店から特典・サービスが受けられる事業。



やまがた健康マイレージ事業の概要

- ウ 高齢者が要介護状態等となることの予防又は要介護状態の軽減若しくは悪化の防止を目的に、ロコモ・フレイル・介護予防に係る取組みを推進します。
- エ 高齢者のスポーツ活動等を通して、世代間の交流や生きがい、健康づくりを促進します。

[主な取組みの例]

- 創意工夫に富んだ特色ある健康づくりに取り組む企業を表彰する「やまがた健康づくり大賞『健康経営部門』」の実施及び取組み内容の周知等による「健康経営」の普及・啓発
- 「健康経営」の一環として、従業員の健康の保持・増進のためにウォーキングを促す取組みや健康づくりの取組みを行う事業所に対する支援
- 「やまがた健康マイレージ事業」の周知及び「ウォーキングプロジェクト」など県民の運動習慣の定着を促す企画等の実施
- ロコモ予防に向けた運動や望ましい食生活、日常的な口腔ケアの普及・啓発
- 市町村が運営する通いの場の充実を図るためのフレイル・介護予防プログラムの普及・促進及び研修の実施等による通いの場の担い手育成
- 山形県健康福祉祭の開催及び全国健康福祉祭（ねんりんピック）への本県選手団の派遣



通いの場（写真提供：川西町）



山形県健康福祉祭（写真提供：山形県社会福祉協議会）

③ スポーツ指導者等の育成とスポーツボランティア活動の普及・促進

- ア スポーツ指導者を活用するための情報システム「リーダーバンクやまがた⁹」について、学校や総合型クラブ、スポーツ少年団等に幅広く周知し、利用の拡大を図るとともに、登録者数の増加に努めます。
- イ 県広域スポーツセンターにおいて、スポーツ推進委員などのスポーツ指導者に対して、学校や総合型クラブ、スポーツ少年団等での活動機会の情報提供に努めます。
- ウ 生涯スポーツや全国規模の大会等の支援のため、スポーツ団体と連携して資質の高い指導者や運営スタッフ等の養成に努めるとともに、子どもの発達段階に応じ、スポーツ医・科学的知見を取り入れた指導や、スポーツに対する意欲や楽しさが増すような指導が実践されるよう充実を図ります。
- エ 県民がボランティア等のスポーツを支える活動に興味・関心を高めることができるよう、関係団体等と連携し、情報発信等に努めます。

[主な取組みの例]

- スポーツ指導者研修会等の場における「リーダーバンクやまがた」の周知
- 関係者が連携・協働の促進を協議する県広域スポーツセンター企画運営委員会や各地区広域スポーツセンター運営委員会等の開催
- 県スポーツ協会との共催によるスポーツ指導者研修会や県スポーツ推進委員協議会との共催による研究大会等の開催
- 全国規模の大会等におけるボランティアの積極的な活用の検討
- 障がい者スポーツボランティアバンクを活用したボランティアの募集及び活動の実施

⁹ 地域のスポーツ・文化芸術関係指導者と地域で活動するスポーツ・文化芸術団体とのマッチングを実現させ、それぞれの地域で「スポーツ・文化芸術が身近にある生活」の実現を目標とし、その一助となることを目指すシステム。(https://www.leader-bank-yamagata.jp/)

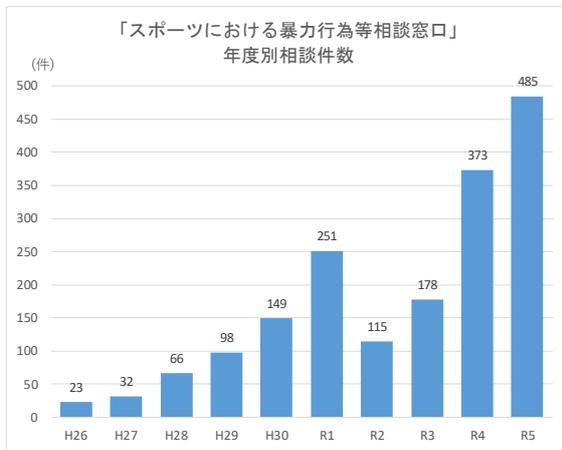
<施策展開の方向>

(2) スポーツを楽しむ環境の整備

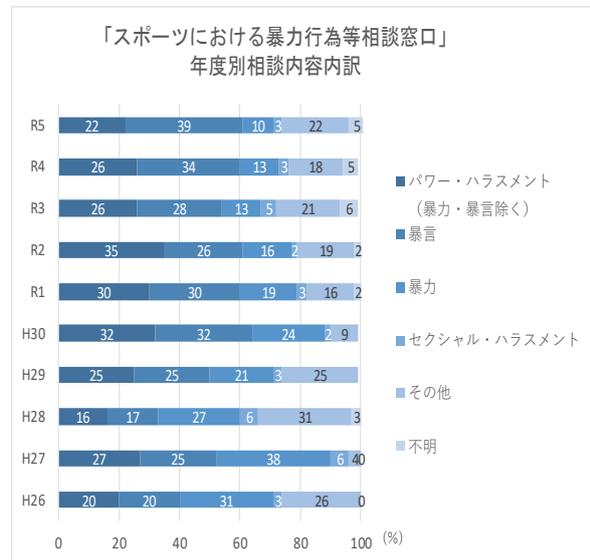
【現状と課題】

- 日本スポーツ協会では、平成 25 年から「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」を設置しています。年度別の相談件数は増加傾向にあり（令和 2 年度、3 年度は新型コロナの影響により減少）、令和 5 年度は過去最多の 485 件の相談がありました（出典：日本スポーツ協会 HP）。

スポーツを実施する者が、本人の希望しない理由等でスポーツから離れたり、スポーツを楽しむ機会を奪われたりすることがないように、スポーツに関するハラスメントの根絶が必要です。



出典：日本スポーツ協会 HP



- 近年、世界的な気候変動の影響により平均気温が上昇しており、特に夏季における熱中症が人々の生命や生活に関わる深刻な問題となっています。こうした状況を踏まえ、スポーツ活動中の発生を防ぐため、こまめな休憩・水分補給はもちろん、運動会・体育祭の実施時期の見直しなどの取り組みを行っていますが、引き続き、適切な予防、対策を実施する必要があります。



熱中症予防に関するチラシ（山形県 HP）

- 安全な環境の下で日常的にスポーツに親しむため、スポーツ事故・スポーツ障害の防止等は不可欠であり、スポーツ用具の安全性の確保や、実技指導に当たるスポーツ指導者等の安全に関する知識・技術の習得・活用が必要です。
- スポーツ団体による信用失墜行為（不正経理事案等）の発生は、スポーツ界全体に対する県民の信頼を損なうものであり、国の策定するガイドライン等に沿ってガバナンスを強化し、透明性・公正性の高い組織運営体制を整備する必要があります。
- スポーツ競技大会においてフェアプレーに徹するアスリートを守り、公正性を確保するため、山形県アンチ・ドーピング委員会と協力し、今後も、アンチ・ドーピング研修会の開催等、ドーピング防止活動を推進する必要があります。
- 学校体育施設は、授業や運動部活動を展開する基礎的な児童生徒の活動の場であるとともに、地域住民へのスポーツ環境の提供という観点からも重要であり、積極的な利用の促進を図る必要があります。
- 県内のスポーツ施設は、平成4年に開催した「べにばな国体」を契機に整備された施設が多いことから、老朽化や規格変更等に伴う整備については、関係自治体や競技団体と協議し、公的ストックの適正化とインフラ管理のスマート化を踏まえながら、整備の在り方について検討していくことが必要です。
- 本県では、目的・活用実態等により、スポーツ施設を地域スポーツ施設と競技スポーツ施設の2つに区分しており、それぞれに応じた整備の在り方の検討が必要です。

	地域スポーツ施設	競技スポーツ施設
区 分	地域住民が日常生活の中でスポーツに親しむもの	施設の規模や設備が全国的な競技会を開催する基準を満たし、トップアスリートの育成につながるもの
整 備	市町村が整備する	県又は市町村が各種助成制度を活用して整備することを基本とする

<施策>

① スポーツにおける安全・安心の確保

- ア スポーツ指導者、スポーツイベントの主催者、スポーツ施設の管理者等を対象として、熱中症への対策も含めたスポーツ事故・スポーツ障害等の防止に関わる最新のスポーツ医・科学的な知見等を学習するための研修会を実施します。
- イ 県スポーツ協会とも連携し、いじめや体罰、セクシャルハラスメント等のスポーツハラスメント根絶に向けた取組みを実施します。



私たちは、「スポハラ」のないスポーツ界を目指します。

[主な取組みの例]

- 事故防止やいじめ・体罰根絶に向けた「いじめ防止・体罰根絶に向けた運動部活動運営統括責任者研修会」及び各種実技研修会の開催
- スポーツハラスメント（暴力・虐待等）の根絶、熱中症対策の徹底やけが防止等スポーツ分野における事故の防止に向けた研修会の開催
- 競技団体、総合型クラブ、スポーツ少年団、部活動の指導者等への普及・啓発
- 女性アスリートを対象とした相談窓口の設置・運営

② スポーツインテグリティ（誠実性、健全性、高潔性）の確保

- ア 管轄するスポーツ団体に対し、補助金等の適正な取扱いなどコンプライアンスの徹底及び透明性の高い組織運営が図られるよう、その啓発・指導に努めます。
- イ 県内アスリートや保護者、指導者等がアンチ・ドーピングについての理解を深めるため、研修会等の充実を図ります。

[主な取組みの例]

- コンプライアンスの確立や事故の未然防止に向けた周知徹底を図るための

コーチングスタッフ会議、事務担当者会議の開催

- 評価委員会や競技団体ヒアリングにおける補助金等の会計指導の実施
- 県スポーツ協会との連携による競技団体のガバナンス強化の推進
- ドーピング防止の理解を深めるための研修会の開催

③ 学校体育施設・スポーツ施設等の整備・有効活用

ア 学校体育施設のトイレ洋式化、照明のLED化を推進するとともに、近年の酷暑を受けた学校体育施設への冷房設備の設置や断熱化を推進します。また、学校体育施設を建設・改修する場合は、出入口を校舎から独立して設けるなど、総合型クラブ等の地域スポーツクラブ¹⁰（以下「地域クラブ」という。）の利用に配慮した公共の施設づくりに努めます。

イ 学校体育施設を積極的に開放し、学校が地域住民へスポーツをする場を提供するよう努めます。

ウ 本県を拠点に活動するプロスポーツチーム等と地域住民との交流やスポーツイベント等の場を提供するよう努めます。

エ 県内に唯一の競技スポーツ施設について、整備の経緯や施設の特特殊性などを考慮し、市町村等への支援を行います。

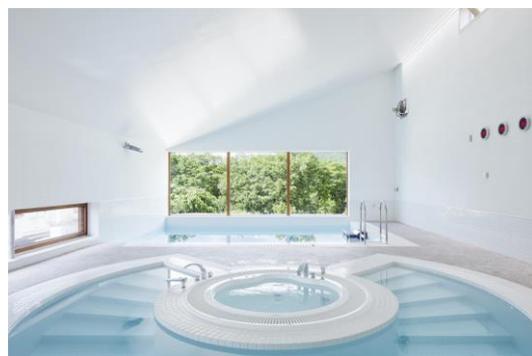
[主な取組みの例]

- 地域住民も利用しやすい学校体育施設の建設、改修（トイレ洋式化、照明のLED化、独立した出入口の設置等）
- 学校開放事業の実施及び開放校の拡大
- プロスポーツチーム等や地域団体等と連携した交流やイベントの場の提供
- 県内に唯一のスポーツ施設に対する山形県市町村総合交付金や山形県スポーツ振興基金による支援
- 山形市と連携・協力し、県による多機能性を有する屋内スケート施設と、山形市による体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設の整備検討を推進

¹⁰ 地域の多様な主体（総合型クラブ、スポーツ少年団、スポーツ協会、競技団体、プロスポーツチーム等の団体・組織）が運営・実施するスポーツクラブ等の総称。

「蔵王坊平アスリートヴィレッジ」

蔵王坊平アスリートヴィレッジは、標高1,000mにあるナショナルトレーニングセンター（NTC）高地トレーニング強化拠点施設であり、特別なトレーニングの基地として国内外のスポーツ関係者に認識されています。トレーニング施設はもちろん、宿泊施設、リハビリ施設も充実し、トップアスリートから市民スポーツまで幅広く利用でき、各種トレーニングに必要な条件が揃う場所です。また、国内外から多数のアスリート及びその関係者が来訪することなどにより、地域の活性化にもつながっています。（※平成27年度に山形県市町村総合交付金等を活用しグラウンドの大規模改修を実施）



左上：全景、右上：トレーニング室、左下：クロスカントリーコース、
右下：坊平リハビリ温泉 高原ゆ （写真提供：上山市）

基本方針2 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上

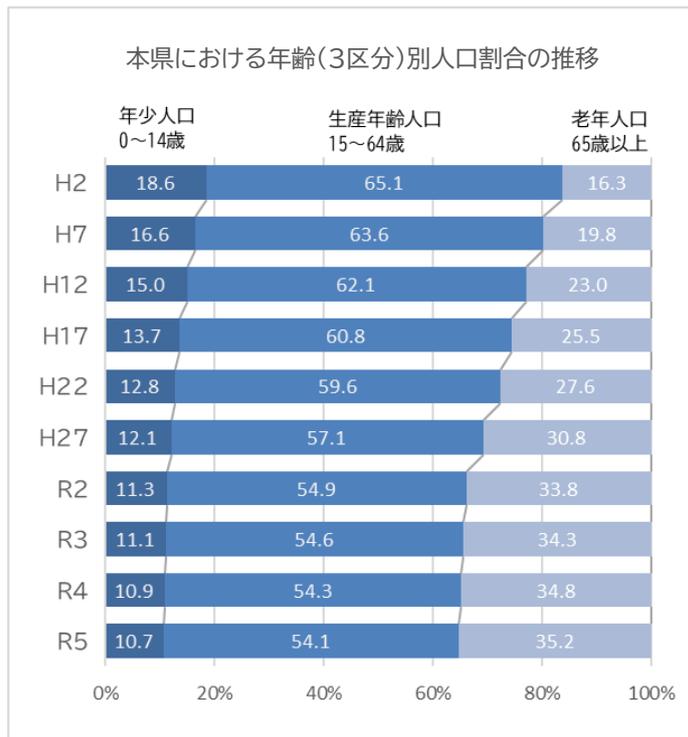
子どもの心身の健全な発達や、生涯にわたってスポーツに親しむ意識の醸成等に向けて、多様な主体が連携することで、子どものスポーツ機会の充実と体力の向上を図ります。

<施策展開の方向>

(1) 多様な主体が連携した子どものスポーツ機会の充実

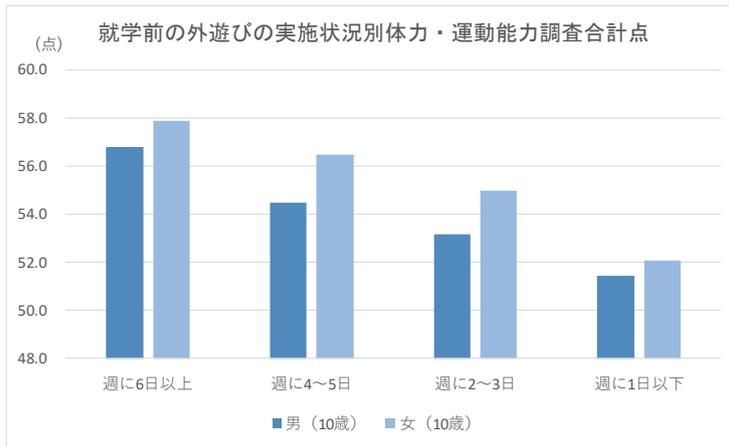
【現状と課題】

- 少子化の進行により、スポーツや遊びの仲間となる子どもの数が減少するとともに、交通手段の発達や情報化の急速な進展など生活様式の変化に伴い、子どもが日常的に歩いたり、体を動かして遊んだりするなどの機会が減少している傾向にあります。



出典：
令和5年「山形県の人口と世帯数」

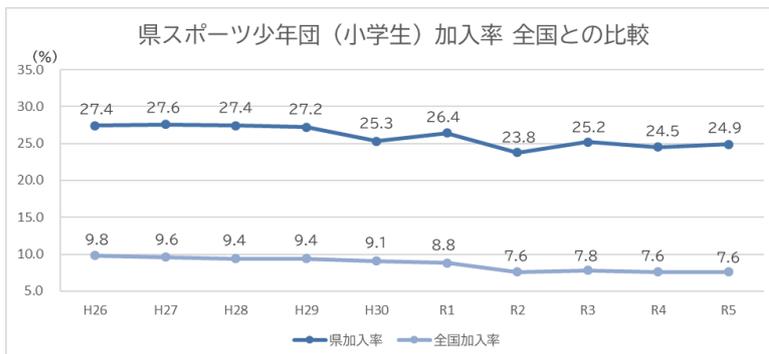
- 子どもの運動習慣の形成は、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎的な体力や運動能力を育む上で重要です。生涯にわたりスポーツに親しむためには、家庭や学校、地域等の連携による幼児期からの積極的な取り組みが必要です。



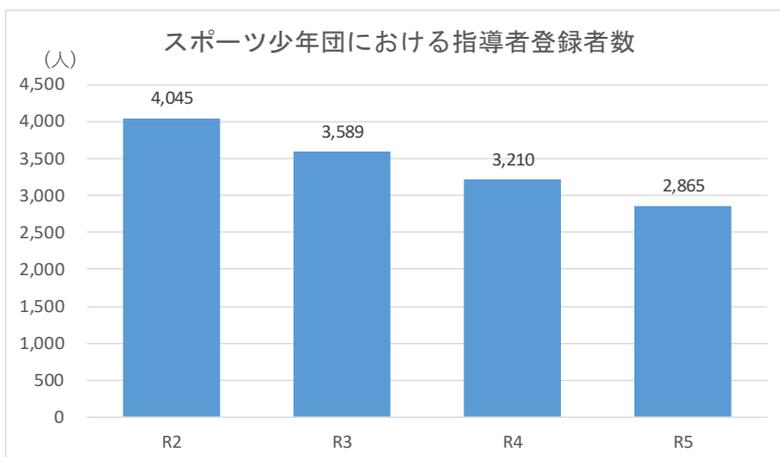
出典：
令和5年度「体力・運動能力調査」

○ 本県は、小学生のスポーツ少年団の加入率（令和5年度：24.9%（全国加入率7.6%））が全国と比較しても高い状況にあり、小学生を中心とした特徴あるスポーツ環境を維持しています。

一方、地域における子どもたちのスポーツ活動の場となるスポーツ少年団や総合型クラブ等では、スポーツ指導者が減少しており、多様化するニーズに対応した指導者の育成が必要です。



出典：
県観光文化スポーツ部調べ



出典：
県観光文化スポーツ部調べ

- 少子化や部活動改革の推進など、子どもを取り巻くスポーツ環境が変化する中、子どもの豊かなスポーツ活動の実現に向け、学校と地域等との連携・協働により、持続可能なスポーツ環境を整備する必要があります。

<施策>

① 幼児期から子どもが楽しく運動する取組みの推進

- ア 幼児が、生活の中で自発的に楽しみながら体を動かして遊ぶ機会が確保できるよう、スポーツ団体等と連携し、「幼児期運動指針¹¹」や「アクティブ・チャイルド・プログラム¹²」の普及・活用に努めます。
- イ 家庭や幼稚園、保育所等における子どもの身体活動の推進のため、保護者や保育者等に対し、幼少期におけるふれあい遊びや身体活動の重要性の意識付けを図ります。
- ウ プロスポーツチーム等と連携し、子どもが体を動かす楽しさや喜び、体づくりの大切さを知る機会を創出します。

[主な取組みの例]

- 保育所、幼稚園などへの幼児期運動指針等の周知
- 市町村が実施する「幼児共育ふれあい広場」への支援
- プロスポーツチーム等と連携した体を動かす楽しさを体感する機会の提供



学校等におけるプロスポーツ選手との交流

- プロスポーツチーム等と連携した食育活動を通じた体づくりの大切さを学ぶ機会の提供

¹¹ 文部科学省が設置した「幼児期運動指針策定委員会」において、平成 24 年3月に策定した幼児(3歳から6歳の小学校就学前の子ども)期における運動の在り方についての指針。

¹² 公益財団法人日本スポーツ協会が開発した、子どもが楽しみながら積極的に体を動かすことができる運動プログラム。

② 地域や関係団体等と連携した子どものスポーツ機会の充実

- ア 子どものスポーツ活動が効果的・効率的に行われるよう、総合型クラブ、スポーツ少年団、学校、学校体育団体、競技団体、障がい者スポーツ団体等が各団体に関する情報を共有する機会を設けます。
- イ スポーツに親しむ子どもの輪の拡大を図るとともに、スポーツ少年団相互の友好と交流を促進する取組みを実施します。
- ウ 総合型クラブやスポーツ少年団等と連携し、放課後子ども教室での多様な運動を体験する機会の提供や保護者への啓発活動を促進するとともに、地域の様々なスポーツ活動を通して子どもの運動経験の充実に努めます。
- エ スポーツへ苦手意識を持つ児童生徒や、運動部活動へ積極的に関わらない生徒が、放課後子ども教室や放課後児童クラブ、総合型クラブ等においてスポーツに親しむことができる場や機会を増やす取組みを支援します。
- オ 地域における子どものスポーツ機会を充実させるため、総合型クラブやスポーツ少年団の活動を支援します。
- カ 部活動改革を踏まえた地域スポーツの推進体制を整備するとともに、地域クラブ活動における新たな価値¹³の創出に向け支援します。

[主な取組みの例]

- 関係者が連携・協働の促進を協議する県広域スポーツセンター企画運営委員会や各地区広域スポーツセンター運営委員会等の開催（再掲）

The screenshot shows the website for the Yamagata Wide Area Sports Center. At the top, there's a header with the center's name in Japanese and English, and a navigation menu. The main content area features a large photo of a sports event with the text 'スポレク祭 モルック'. Below the photo, there are several informational boxes and a sidebar with various links and news items. A prominent text box on the right side of the page states: '山形県広域スポーツセンターのWebサイトには、県内のスポーツ関連イベント情報等が満載'.

¹³ 新たな価値の例としては、子ども達のニーズに応じた多種多様な体験(マルチスポーツやスポーツと文化芸術との融合を含む)、子ども達の個性・得意分野等の尊重、学校を越えた仲間の獲得、様々な世代との豊かな交流、専門的指導者による高度な指導、学校段階にとらわれない継続的な指導などが挙げられます。

- 県スポーツ少年団との共催による「県少年少女スポーツ交流大会」の実施



県少年少女スポーツ交流大会（レスリング競技）

- 発達段階に応じて基礎的な動作を獲得できる「アクティブ・チャイルド・プログラム」等の運動遊びプログラムを活用した幼児や就学児を対象とした総合型クラブの教室化の支援
- 総合型クラブと放課後子ども教室との連携・協働の促進
- 放課後子ども教室等の指導者を対象とした研修会における事例の提供や実技指導
- クラブアドバイザー¹⁴等による総合型クラブとスポーツ少年団の育成・支援
- 山形県部活動改革推進協議会の開催
- 市町村における部活動の地域展開に向けた取組みを支援する県アドバイザーの配置
- 民間支援組織との連携による、市町村や地域クラブ等における地域スポーツの基盤整備に向けた取組みへの支援
- 部活動改革を踏まえた地域におけるスポーツの在り方等に関する県民の意識醸成に向けたシンポジウム等の開催

¹⁴ クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスする役割を担っています。

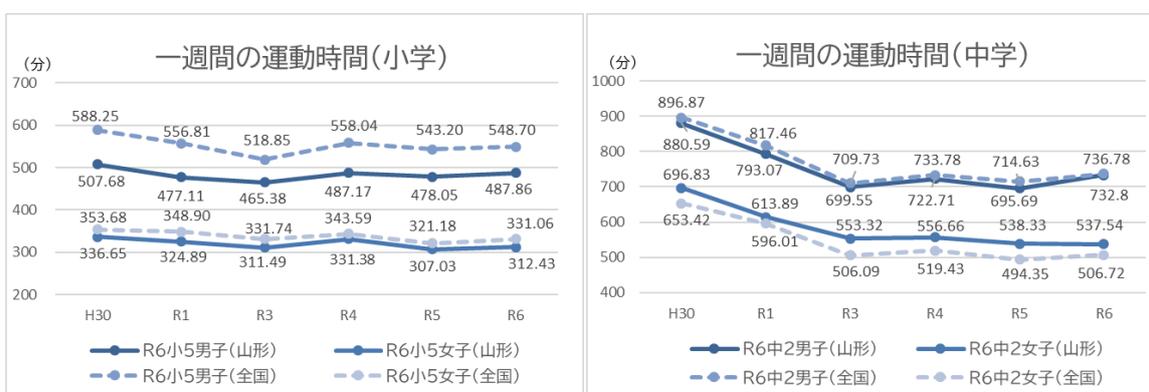
<施策展開の方向>

(2) 学校におけるスポーツ活動の充実

【現状と課題】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査¹⁵によると、本県の1週間の総運動時間は中2女子を除き全国平均を下回っていますが、新型コロナの影響による減少に歯止めがかかりつつあります。一方、本県の児童・生徒の「運動やスポーツをすることが(好き・やや好き)」の割合などは概ね全国平均を上回っています。

一週間の運動時間(体育の授業時間を除く)



子どもの運動やスポーツに関する意識

質問内容	小学校5年生				中学校2年生			
	男子		女子		男子		女子	
	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国
運動やスポーツをすることが(好き・やや好き)	94.4%	93.3%	86.9%	86.2%	93.4%	90.3%	82.3%	76.8%
あなたにとって運動やスポーツ(大切・やや大切)	94.7%	93.8%	90.4%	90.4%	95.2%	92.5%	90.6%	85.2%
中学校で授業以外に自主的に運動したい(思う)	68.0%	66.8%	56.0%	54.8%				
中学卒業後自主的に運動したい(思う)					63.1%	59.9%	40.7%	39.8%

出典：令和6年度「体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」

- 学校における体育授業は、生涯にわたるスポーツライフを実現するための基礎となるものです。子どもの頃の運動習慣が大人になってからの運動習慣・運動能力に影響する傾向があることから、生涯にわたって日常的にスポーツに親しむことができるようにするため、授業の工夫・改善や体力向上に係る取組みにより、「運動の楽しさ」の実感を通して、「運動が好き」という子どもを増やすことが重要です。

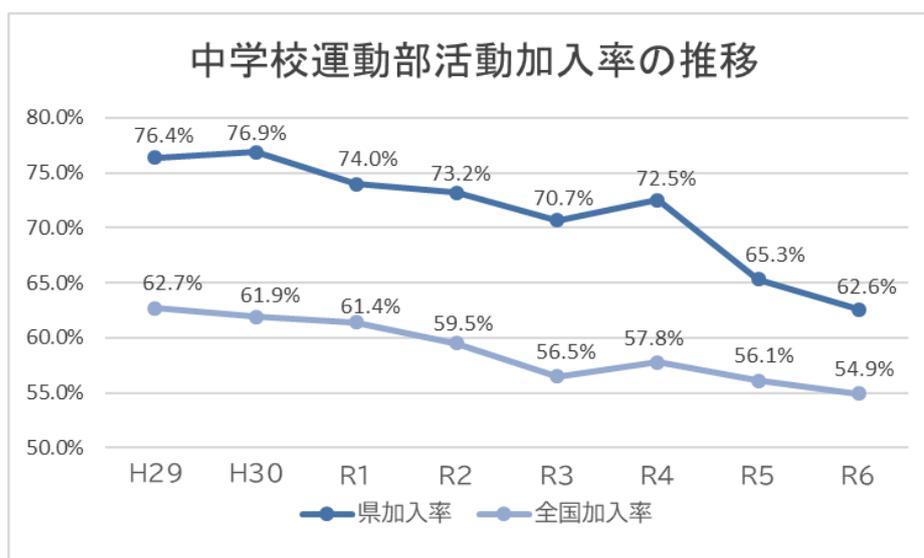
¹⁵ 国や教育委員会が、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策等の成果と課題を検証し、その改善を図ることや、学校が体育・保健体育の授業等の充実・改善に役立てる取組みを通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に実施する調査。

- 令和5年11月に第62回全国学校体育研究大会山形大会が開催され、生涯にわたり多様な形でスポーツに関わることができる子どもを育てるという考え方のもと研究実践が進められました。その成果として、日頃から児童生徒に、スポーツをすることの大切さを伝えるとともに、運動の楽しさを実感し、工夫しながら運動する習慣の定着につなげる授業改善が進められています。

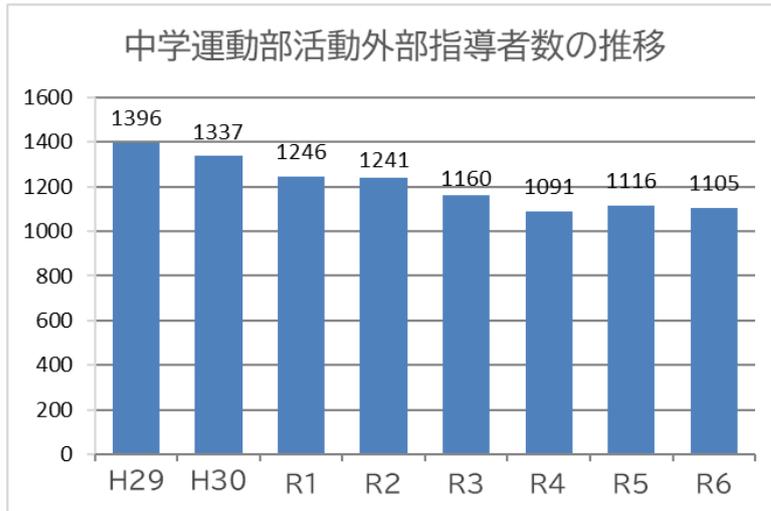


第62回全国学校体育研究大会山形大会
大会主題：生涯にわたる豊かなスポーツ
ライフの実現に向けて

- 学校における部活動については、少子化の進行により、従前と同様の体制で運営することは難しくなっています。学校や地域によっては存続が厳しい状況にあるため、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築を目指し、中学校における休日部活動の地域展開が進んでいます。単独での地域展開が困難な市町村においては、広域的な連携が必要となっており、また、地域展開を推進するにあたり、地域クラブ等における指導者の確保と将来にわたって持続可能な運営のための方策が求められています。



出典：全国中体連及び県中体連調査



出典：
県教育委員会調べ

<施策>

① 体育・保健体育授業の充実

- ア 学習指導要領の内容を踏まえ、生涯にわたりスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方ができる資質・能力を育成するため体育授業の充実を図ります。
- イ 子どもが運動する楽しさを実感し、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度の育成を図るため、アクティブ・チャイルド・プログラム指導者や大学教員などの専門家による研修会を通して、教員の資質向上を図ります。
- ウ 誰もが楽しい体育授業の実践に向け、地域のスポーツ指導員を活用し、体育授業の充実と教員の指導力向上を図ります。
- エ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、児童・生徒の体力の現状を把握するとともに、体力向上の取組み等について、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校への情報発信を行います。

[主な取組みの例]

- 体育授業の改善を図るため、体力向上等に関する取組みや授業の好事例が共有できるデータベースの活用
- 安全かつ円滑な授業の実施や子どもの体力向上に資する指導に関する各種実技研修会の開催
- 「楽しい体育授業づくり研修会」の開催
- 授業の充実を図るため、体育授業の指導を補完する地域スポーツ指導者の学校への派遣

- 体力向上対策会議における、体力・運動能力、運動習慣等に関する課題の共有と体育授業の充実に向けた各学校に応じた取組みの検討



小学校における体育授業

② 地域や関係団体等と連携した部活動等の充実

- ア 「山形県における運動部活動の在り方に関する方針」を踏まえた、適切かつ学校と地域が協働・融合した運動部活動を推進します。
- イ 地域クラブ活動における新たな価値の創出に向け、市町村における部活動改革を踏まえた地域スポーツの推進体制の整備を支援します。
- ウ 教員の代わりとなり部活動の指導や大会等への引率を単独で行うことが可能な部活動指導員の配置を進め、部活動指導体制の充実を図ります。
- エ 新たな部活動指導員及び地域指導者の確保に向け、「リーダーバンクやまがた」の活用促進を図ります。
- オ 運動部活動顧問における学校指導者の資質向上を図る研修会を実施します。

【主な取組みの例】

- 国が策定したガイドラインを踏まえた部活動改革が円滑に進むよう、市町村教育委員会や関係団体等との連携・支援
- 部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する検討の推進
- 山形県部活動改革推進協議会の開催（再掲）
- 市町村における部活動の地域展開に向けた取組みを支援する県アドバイザーの配置（再掲）
- 民間支援組織との連携による、市町村や地域クラブ等における地域スポーツの基盤整備に向けた取組みへの支援（再掲）
- 部活動改革を踏まえた地域におけるスポーツの在り方等に関する県民の意識醸成に向けたシンポジウム等の開催（再掲）

➤ 部活動指導員の学校への配置・活用



部活動指導員による運動部活動指導

- 「リーダーバンクやまがた」の周知・活用促進
- 「いじめ防止・体罰根絶に向けた運動部活動運営統括責任者研修会」の開催

「部活動地域展開に向けた取組み～NPO法人さけがわ友遊クラブ～」

「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」と「教育の働き方改革の推進」の両立を目指す部活動改革の一貫として部活動の地域展開が本県においても進められています。

鮭川村では、鮭川中学校の運動部活動(野球、バレーボール、バドミントン)がない日は、総合型クラブであるNPO法人さけがわ友遊クラブがクラブ活動を実施しています。外部の指導者をクラブのコーチとして任命し、生徒・顧問・保護者が安心して活動できるよう地域展開を行っています。今後は文化部(吹奏楽)も地域展開できるよう新たなしくみづくりが進められています。



基本方針3 国内外で活躍できるアスリートの育成等と競技力の向上

本県のスポーツ選手が、オリンピックをはじめとした国際大会や全国大会等において活躍できるよう、次世代を担うアスリートの発掘やトップアスリートの育成・強化と競技力の向上を目指します。

<施策展開の方向>

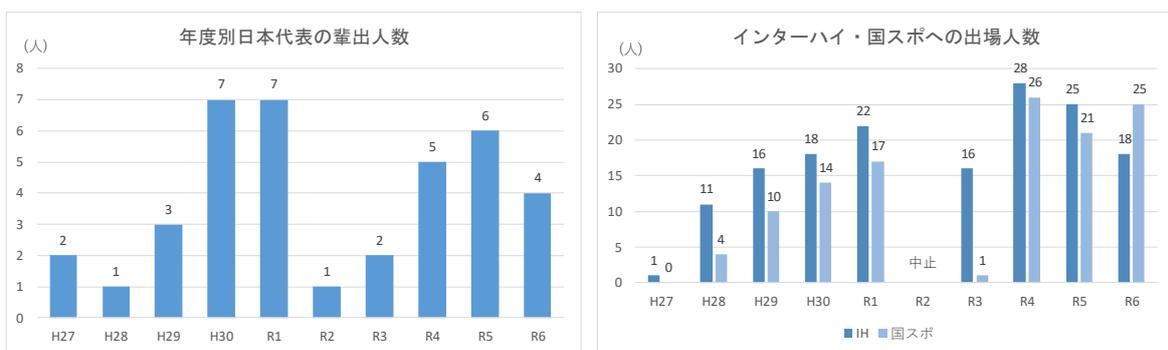
(1) 次世代を担うアスリートの発掘・育成

【現状と課題】

- 県では、オリンピック等のトップレベルで活躍するアスリートの輩出を目指し、平成21年度から「山形県スポーツタレント発掘事業（YAMAGATAドリームキッズ）」を展開してきました。在籍生・修了生の中から、日本代表・年代別日本代表に選出される選手や、国際大会や全国大会で活躍する選手が輩出されるなど着実に成果が上がってきています。

引き続き、オリンピックをはじめとした国際大会等で活躍するトップ選手を輩出することや本県の競技力の維持・向上を目指し、次世代を担うアスリートの発掘・育成に取り組む必要があります。

これまでのYAMAGATAドリームキッズの成果



出典：県観光文化スポーツ部調べ

<施策>

① 「YAMAGATAドリームキッズ」の発掘・育成

ア 「山形県スポーツタレント発掘事業」により、優れた資質を有する子どもを「YAMAGATAドリームキッズ」として発掘するとともに、競技団体や地域クラブ、国による発掘育成事業と連携を図りながら、一貫した指導体制に基づく育成・

強化プログラムを実施することにより、世界に羽ばたくアスリートを育成します。

イ YAMAGATAドリームキッズを育成・強化するためのプログラムについて、競技団体等における活用を促進するとともに、地域におけるジュニアアスリート育成に関わるスポーツ指導者間の連携を促進します。

[主な取組みの例]

- YAMAGATAドリームキッズの認定と一貫した指導による育成・強化
- 日本スポーツ振興センター、中央競技団体、県競技団体等と連携した各種育成・強化プログラムの展開
- 国による発掘育成事業との連携による種目適性評価の充実
- SNS等を活用したYAMAGATAドリームキッズプログラムの情報や魅力の発信
- YAMAGATAドリームキッズの各種プログラムにおける中央競技団体や県競技団体との連携による、各競技団体でのジュニア選手の発掘・育成の推進



YAMAGATA ドリームキッズの強化・育成プログラム

② ジュニア期における一貫した指導体制に基づく育成・強化

ア 「山形県競技スポーツ強化推進プロジェクト会議」等において、ジュニア期における一貫指導体制の基本方針や、カヌーなどこれまで本県が得意としてきた競技の再構築、新たな得意競技の育成などの具体的な強化策について検討し、競技力向上の基盤強化を図ります。

イ ジュニア期における競技力向上を図るため、競技団体や地域クラブが主体的に一貫指導に取り組む体制の構築や、各団体が策定する一貫指導プログラムの普及・実践のための支援を行うとともに、山形県スポーツタレント発掘事業と連携しながら、ジュニアアスリートの発掘・育成システムを構築します。

ウ これまで開催された全国大会等における競技団体や学校体育団体との連携により培われた高い競技レベルやノウハウの継承、地域のプロスポーツチーム等との交流・連携により、競技力の向上を図ります。

エ 各種広報媒体（SNS等含む）を通して地元のジュニアアスリートを積極的に紹介、応援することなどにより、選手の意欲向上を図り、地域全体で将来のトップアスリートを育成します。

オ スポーツ少年団や中学校体育連盟・高等学校体育連盟等との連携を図りながら、トップチームで活躍できる選手の輩出に向けて、有望選手の発掘・育成を組織的・継続的に推進します。

[主な取組みの例]

- 県中学校体育連盟及び県高等学校体育連盟に対する強化費等の支援
- 山形県競技スポーツ強化推進プロジェクト会議の開催及び競技団体等と連携した課題等の検討
- 県内競技団体と協力したジュニアアスリートの発掘・育成システムの継続的な推進
- 中・高生の一貫強化指導体制の確立を目指す競技団体への支援
- スポーツ少年団や中学校体育連盟・高等学校体育連盟及び競技団体と連携した有望選手の発掘・育成
- モンテディオ山形アカデミー運営への支援による有望選手の県内育成
- SNS等を活用した本県アスリートに関する積極的な情報発信や、報道機関に対する本県ジュニアアスリートに関する情報提供の実施

「山形県スポーツタレント発掘事業（YAMAGATAドリームキッズ）」

県では、平成21年度から、オリンピックや国際大会などトップレベルで活躍する選手の輩出等を目指して、関係する競技団体等と連携しながら、5年間のプログラムにより「YAMAGATAドリームキッズ」の育成に取り組んでいます。

毎年度、「YAMAGATAドリームキッズ」として、約200～300名程度の応募者の中から30名が選考され、現在、県内の小学3・4年生から中学3年生までの児童・生徒140名（令和6年4月）が、基礎的運動能力の向上や栄養学等の学びの取組みを進めています。こうした県内での継続的な育成・指導の結果、これまでにYAMAGATAドリームキッズ出身者が世界的な大会で活躍したり、日本代表・年代別日本代表として選出されたりするなどの成果が出ており、今後さらなる活躍が期待されます。



Instagramでも活動内容を発信しています

Instagram

ログイン

登録する



yamagata.dreamkids

フォロー

投稿49件

フォロワー432人

フォロー中100人

YAMAGATAドリームキッズ
山形県スポーツタレント発掘事業実行委員会
YAMAGATAドリームキッズ公式Instagramです。
活動の様子や大会結果などを掲載します。
@ y-dreamkids.jp

📖 投稿

🎥 リール

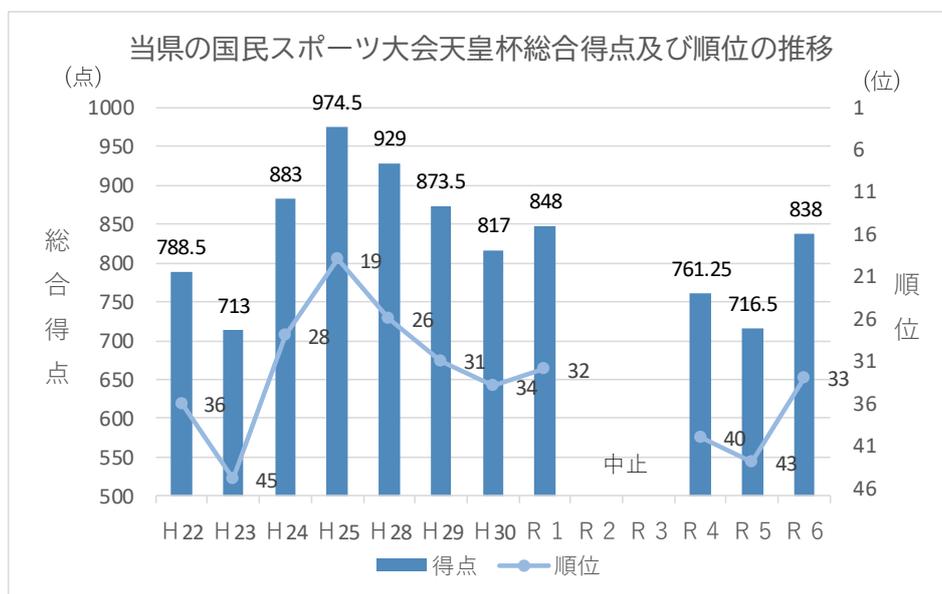
👤 タグ付けされている人

<施策展開の方向>

(2) トップアスリートの育成・強化

【現状と課題】

- 本県にゆかりのある選手の世界や全国の檜舞台での活躍は、県民に元気や感動を与えるとともに山形の活力の国内外への発信に寄与するものであり、競技団体等と連携して、トップアスリートの発掘・育成・強化を行うことが重要です。
- 近年、本県の国民スポーツ大会天皇杯の順位は30位～40位台となっており、本県の総合的な競技力の向上を目指す計画的・継続的な取組みが重要です。競技者一人ひとりが持つポテンシャルを最大限に引き出し、成長させるため、優れた指導者による指導や適切な指導の下でトレーニングを行う必要があります。



出典：県観光文化スポーツ部調べ

- 将来にわたる競技力の維持・向上には、現役世代を育成するとともに、育成した世代が次代を担う指導者となることも重要です。現役アスリートが引退後も競技に関わり続けるためのサポート体制を整え、指導者としての基礎的な知識や技術を習得する機会を提供すること等により、トップアスリート輩出と指導者育成の持続可能なサイクルを構築する必要があります。
- 現在、プロスポーツをはじめとして、戦術の改善や選手のパフォーマンス向上にデータやデジタル技術が積極的に活用されており、スポーツの現場において、医・科学的見地からのトレーニングやコンディショニング指導等の必要性が大きくなっています。

- リモート技術の活用により、距離の制約を超えて各地の専門家からの質の高い指導、助言にアクセスすることができる環境が整ってきています。新たな技術の活用方法や有効性を検証するとともに、導入可能性の検討や、普及・啓発を図る必要があります。

<施策>

① 国際大会や全国大会等に向けた戦略的支援の充実・強化

- ア オリンピック・パラリンピックをはじめとした国際大会での活躍やメダル獲得に向け、有望な選手及び競技団体への支援等、重点的かつ集中的な強化を図ります。
- イ 国民スポーツ大会において順位の上昇を目指し、本県の得意競技等の強化に加え、新たに上位入賞可能な競技を増やすなど効果的な強化を図り、競技力の向上に努めます。
- ウ スポーツ強豪国の強化選手等との強化合宿や交流試合の実施に努めるとともに、国内外の優秀な指導者を招へいし、ジュニア期の競技者への指導を行うなどの交流を図ります。
- エ 障がい者スポーツの競技力向上のため、スポーツ団体及び県内大学等との連携による選手支援を図るとともに、国際大会、全国大会への出場等を支援します。

[主な取組みの例]

- 県内競技団体が行う競技力向上のための取組みに対する継続的な支援
- オリンピアン招へい等による県内トップアスリートへの講演会や研修会等の実施
- パラリンピック又はデフリンピックを目指す選手への支援
- 国民スポーツ大会での天皇杯順位上昇の鍵となる競技団体が行う競技力強化に対する重点的な支援
- 国内外の優秀指導者の招へいやオンラインでの講習会の推進
- 全国大会等を目指す選手に対する専門家（障がい者スポーツトレーナー）による講習会の実施
- 全国障害者スポーツ大会出場選手を対象とした強化練習会の実施



上：国スポにおける本県選手団

下：国スポ山形県選手団結団式（写真提供：県スポーツ協会）

② トップアスリート育成に向けた優れた指導者の養成・確保

ア オリンピックや国際大会、国民スポーツ大会や各種全国大会で活躍する選手を育成することができる、次代を担う指導者の計画的な養成・確保を図ります。

イ 若手指導者が全国トップレベルのチーム・指導者のもとで、技術・戦術・戦略等の指導方法を習得するための研修へ支援を行うなど、若手指導者の育成に向けた取組みの充実を図ります。

ウ 県内指導者の指導力向上を図るため、山形県スポーツタレント発掘事業等を活用しトップアスリートやコーチ、中央競技団体の指導者を招へいた際に、競技団体や総合型クラブ等に対して積極的な情報提供に努めます。

エ 障がい者スポーツの競技力向上のため、障がい者スポーツの指導者の育成・確保に努めます。

オ 優れた実績や技能を持つアスリートを、学校の運動部活動や各競技団体等における中核的な指導者として確保するように努めます。

[主な取組みの例]

- 県外・海外の優秀指導者を招へいた研修会の開催などによる若手指導者の指導力・競技力向上の支援
- 県内の指導者やトレーナー等が研修を受ける機会の提供

- 障がい者スポーツにおける指導者（初級）研修経費及び上・中級指導者等の育成講座受講経費の支援
- 県スポーツ協会の指導者研修会等の参加者に対する「リーダーバンクやまがた」への登録呼びかけによる指導者の確保
- 関係団体等と連携したアスリートの県内回帰方策の検討



スポーツ指導者研修会
（写真提供：山形県スポーツ協会）

③ スポーツ医・科学やデジタル技術の有効活用

- ア アスリートやチームが最大限のパフォーマンスを全国大会等で発揮できるサポート体制を構築します。
- イ 先進デジタル技術やデータの活用促進により競技力向上を図ります。

[主な取組みの例]

- 医・科学的サポートを行うトレーナーの各種全国大会への派遣の支援
- コーチングスタッフ会議等における先進デジタル技術（IP カメラ¹⁶や動作分析ソフト等）の有効性の紹介

¹⁶ 個々にインターネットに接続できる機能を備えたカメラ。ネットワークカメラ。

基本方針4 スポーツによる共生社会の実現と地域活性化の推進

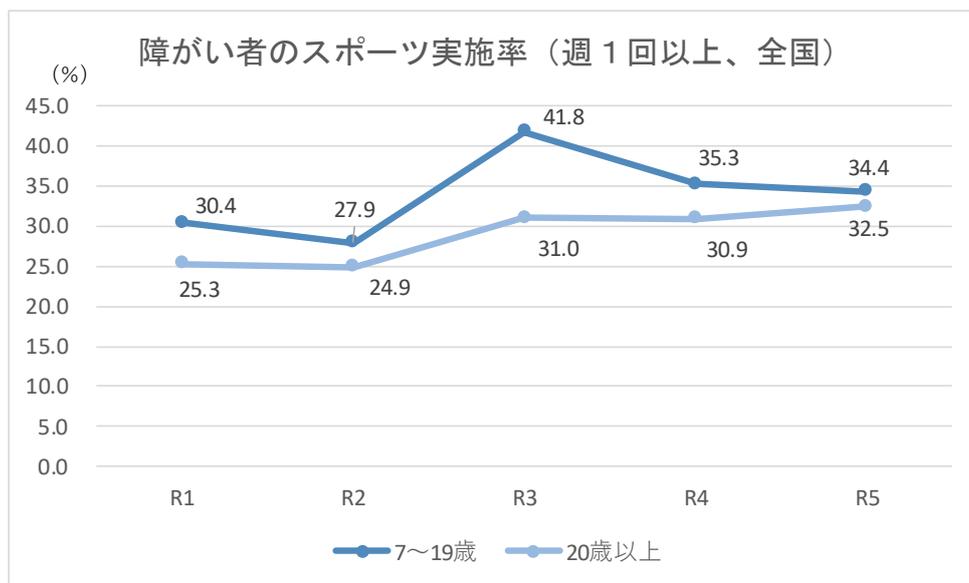
性別や障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整備することにより、スポーツを通じた共生社会の実現を目指すとともに、スポーツを活用した交流の促進等により、地域の活性化を図ります。

<施策展開の方向>

(1) スポーツを通じた誰もが参画できる共生社会の実現

【現状と課題】

- 全国の障がい者のスポーツ実施率（週1回以上、令和5年度）は、7～19歳は34.4%、20歳以上は32.5%にとどまっており、引き続き、障がい者がスポーツを実施しやすい機会の提供や環境の整備を進めていく必要があります。

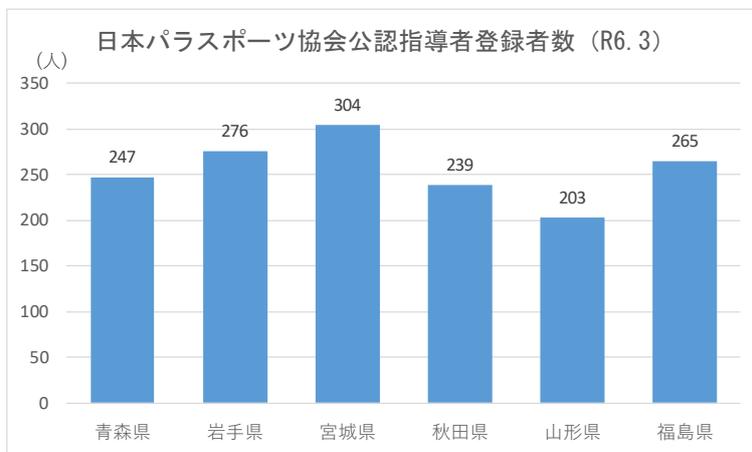


出典：スポーツ庁

- ・ R1～R3 「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」
- ・ R4 「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」
- ・ R5 「障害児・者のスポーツライフ調査」

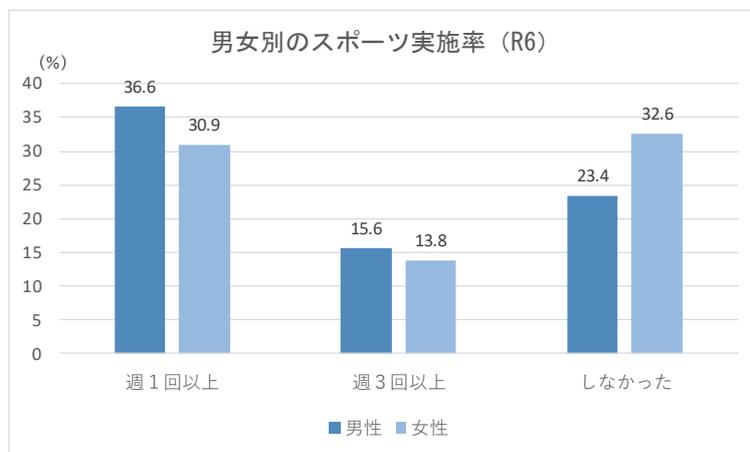
- 本県では、毎年、障がい者スポーツ大会（競技大会、レクリエーション大会）や障がい者スポーツ教室・障がい者スポーツ出前教室等を開催し、障がい者スポーツの普及や選手の発掘・育成、障がい者スポーツに対する県民全体の機運醸成・理解促進を目指した取組みを行っています。

- 本県の日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数¹⁷は令和6年3月現在で203名となっており、障がい者のスポーツ参加を支援する人材の確保・育成を行う必要があります。



出典：(公財) 日本パラスポーツ協会 HP

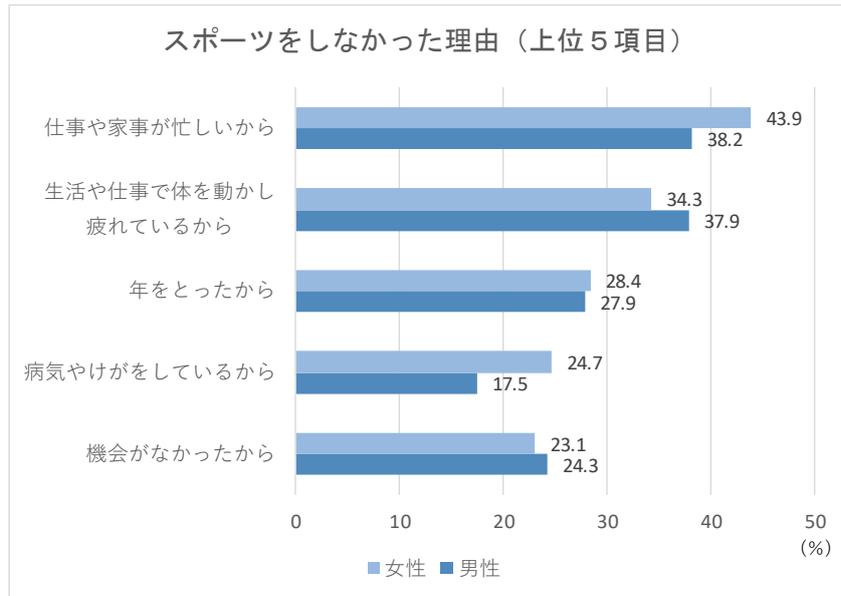
- 本県の女性のスポーツ実施率（令和6年度）は、週1回以上30.9%（男性36.6%）、週3回以上13.8%（男性15.6%）となっており、いずれも男性を下回っている状況です。また、「スポーツや運動をしなかった」割合は32.6%で、男性の23.4%を上回っており、女性のスポーツ実施率の向上を目指す取組みの推進が必要です。



出典：令和6年度「山形県県政アンケート調査」

- 本県の女性のスポーツを実施しない理由は、「仕事や家事が忙しいから」が43.9%で最も割合が高く、男性の割合を上回っています。ニーズを踏まえながら、女性のスポーツを実施する意欲を高めるための取組みやスポーツをしやすい環境の整備等を行う必要があります。

¹⁷ スポーツ指導員(上級、中級、初級)、スポーツコーチ、スポーツ医及びスポーツトレーナーの合計。



出典：令和6年度「山形県県政アンケート調査」

<施策>

① 障がい者スポーツの推進

- ア 障がいのある人が取り組みやすいスポーツの普及を図り、関係団体等と連携しながら、障がい者スポーツの裾野を広げる取組みを進めます。
- イ 障がい者スポーツに対する県民の理解を深めるため、障がいのある人とない人の交流を推進します。
- ウ 特別支援学校において、パラスポーツを教育活動等に採り入れるなどして、個々の障がいの実態に合わせ、スポーツに取り組む機会の充実を図るとともに、東北・全国の体育大会出場を支援し、特別支援学校における体育・スポーツの一層の振興を図ります。
- エ 障がい者スポーツ大会（競技大会・レクリエーション大会）の開催や、全国障害者スポーツ大会への県選手団派遣等について支援するとともに、指導者や各種大会の開催をサポートするボランティア等、障がい者スポーツを支える人材の育成・確保に努めます。
- オ 公共スポーツ施設において、障がい者を含む全ての県民が楽しく安全にスポーツ活動ができるよう、ユニバーサルデザイン化を進めます。

[主な取組みの例]

- 障がい者スポーツ出前教室の開催や障がい者スポーツ普及推進員の配置による障がい者スポーツの普及・振興
- 障がいの有無に関わらず参加できる障がい者スポーツ教室や障がい者スポ

ーツ交流会の開催等による障がい者スポーツの普及啓発・理解促進



障がい者スポーツ教室（ボッチャ）



障がい者スポーツ交流会（ゴールボール）

- 関係団体等と連携した県民に対する障がい者スポーツの情報発信
- 障がい者スポーツの普及・指導を担う障がい者スポーツ指導員等の育成
- 障がい者スポーツ大会（競技大会・レクリエーション大会）の開催



障がい者スポーツ大会（レクリエーション大会）

- 県スポーツ・レクリエーション祭における障がい者が参加しやすい競技等の検討
- 全国障害者スポーツ大会や全国・東北特別支援学校体育大会への選手派遣に対する支援
- 体育科・保健体育科、特別活動及び生活単元学習等の計画へのパラスポーツの積極的な採用並びに特別支援学校へのパラスポーツ用具の配備
- 障がい者スポーツボランティアバンク制度によるボランティアの募集及び活動の実施（再掲）
- ユニバーサルデザインの考え方に配慮した施設更新等の実施

② スポーツにおける女性の活躍推進

ア 総合型クラブ等のスポーツ団体と連携し、ニーズを踏まえたスポーツ機会の提供や、イベント時の託児所の設置など、スポーツに参画しやすい環境の整備に努めます。

イ 常設の女性のスポーツ相談窓口により、スポーツハラスメントや女性アスリート特有の疾病等についての相談を受け付け、競技団体や医療機関等の関係者と連携して状況の改善に向けた働きかけへの支援を行います。

[主な取組みの例]

- 総合型クラブの教室や県スポーツ・レクリエーション祭における女性が参加しやすい種目等の検討



県スポーツ・レクリエーション祭

(左：バウンドテニス、上：女子ソフトボール)

- 女性アスリートを対象とした相談窓口の設置・運営（再掲）
- スポーツハラスメントの根絶に向けた研修会の開催（再掲）

<施策展開の方向>

(2) スポーツを通じた地域活性化の推進

【現状と課題】

- 本県では、平成30年10月に「山形県スポーツコミッション¹⁸」を設立し、令和6年4月現在、県、市町村、スポーツ団体、経済団体等100団体が会員となっています。スポーツコミッションでは、県外からのスポーツイベント、合宿の誘致活動や県内のスポーツ施設等の情報発信など、スポーツによる交流拡大・地域活性化のため、関係者が一体となった取組みを推進しています。



スポーツコミッションによるイベント

- 本県には、サッカー、バスケットボール、バレーボールのプロリーグに所属するスポーツチームや全国で活躍する企業スポーツチームがあります。これらの地域に根差したスポーツチームの活躍は、県民に勇気や元気を与え、地域の絆や誇りを育むとともに、本県の活力を全国に発信しています。



モンテディオ山形のホームゲーム

- 令和6年2月に開催した「やまがた雪未来国スポ」においては、県内外から2万人を超える選手・観覧者等が競技地等を訪れ、県内に大きな経済効果をもたらしました。県内の地域活性化等を図るため、引き続き関係団体等と連携しながら、全国規模の大会等の誘致・開催を検討する必要があります。

¹⁸ 国内外からのスポーツ大会、合宿等の誘致や受入支援、スポーツ施設・スポーツ大会に関する情報や文化・観光資源に関する情報の発信を行い、地域の資源を活かしたスポーツツーリズム等スポーツを核にした交流による地域活性化を図るため設立した団体。

- プロスポーツの観戦・応援や、本県の豊かな自然等を活かしたスキーやサイクリングなどアクティビティとしてのスポーツなども本県の観光コンテンツの一つです。これらを活用し、「スポーツツーリズム」として、国内外から人を呼び込むとともに、まちづくりや地域活性化につなげていくことを検討する必要があります。



本県の自然を活かした観光コンテンツ

- スポーツは、世界共通の人類の文化である（「スポーツ基本法」前文）とともに、文化としての身体活動を意味する広い概念である（「第3期スポーツ基本計画」）ことから、身体運動文化であるスポーツの地域資源としての活用を検討していく必要があります。
- アスリートの県内回帰・定着に向けては、「山形県企業スポーツ振興協議会¹⁹」や関係団体等と連携してアスリートのニーズを把握するとともに、本県の競技スポーツや地域スポーツの推進のため、県内でスポーツ選手や指導者として活躍できるための取組みを進めていく必要があります。

<施策>

① プロスポーツチーム等との連携

- ア プロスポーツチーム等の活動を支援するとともに、プロスポーツチーム等と連携し、県民が観戦する機会や選手との交流機会をより一層創出します。
- イ 地域住民がホームゲーム開催時などに行う地域の魅力発信活動や交流活動、賑わい創出事業等に対し支援します。

[主な取組みの例]

- プロスポーツチーム等の選手が行う地域貢献活動への支援

¹⁹ 「べにばな国体」を契機に盛んになった企業のスポーツ活動の輪を広げ、今後、さらに普及振興と相互の連携を図り、併せて本県スポーツ界の活性化と競技力の向上に資することを目的とし、平成6年8月に設立。令和6年4月現在 42 社が会員となっている。

- プロスポーツチーム等の応援やスポーツ教室の開催に係る経費への補助
- 山形県スポーツ振興 21 世紀協会が行う市町村応援デー等への支援

② スポーツイベントの開催・スポーツツーリズム等を通じた交流の拡大や地域づくりの推進

ア 山形県スポーツコミッションにおいて、県、市町村、競技団体、観光団体、企業等が一体となってスポーツに関する情報を発信するとともに、スポーツ合宿やイベントの誘致を推進します。

イ 各種スポーツイベント等について、規模や内容等に応じた広報媒体の活用により、効果的な情報発信、周知を図ります。

ウ 国内外から参加者を募る大規模な大会の開催などスポーツを通じた交流人口の拡大・地域活性化に向けた取組みを支援します。



鶴岡市で開催された「国際バドミントン U16 庄内」

エ 広く県民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興や地域の活性化を図るため、全国規模の大会の誘致・開催を検討します。

オ 本県が持つスポーツに係る観光コンテンツを活用し、「スポーツツーリズム」として旅行者の多様なニーズに対応できる観光誘客を進めます。

カ アスリートの県内定着・回帰の促進に向けて、県企業スポーツ振興協議会や県スポーツ協会と連携し、県内企業の情報提供を行うとともに、県内に就職したアスリートが、社会人選手や指導者等の本県スポーツを支える人材として活躍できる場の拡充を図ります。

[主な取組みの例]

- 山形県スポーツコミッションによるスポーツ施設や宿泊施設等の情報提供及び合宿支援のための相談窓口の設置
- 県スポーツコミッションと連携した県内へのスポーツ大会及び合宿の誘致
- 市町村と連携した県内で合宿を行うスポーツチームへの支援

➤ スポーツ合宿を行う団体と地域住民との交流の支援



本県で合宿を行った大学野球部



合宿団体と地域住民との交流（写真提供：上山市）

- 県公報誌及び県公式 SNS、山形県スポーツコミッション公式 SNS 等を用いたイベントの開催等の情報発信、周知
- 国内外から参加する交流事業、大会に対する支援
- 日本スポーツマスターズの誘致・開催の検討
- スポーツ資源を活用した新たな観光コンテンツの造成促進



武道（居合道）を活用した観光コンテンツ

- 評価委員会や競技団体ヒアリングの場におけるアスリート雇用を進めている企業等の情報共有
- 企業スポーツ振興協議会における講演会等や会報誌発行による選手活躍事例の紹介等による情報共有
- 県内回帰アンケートの実施及び分析結果の活用

③ 地域のスポーツ資源を活用した地域スポーツの推進

ア 関係団体等と連携し、本県の特徴である冬季スポーツやレクリエーション等、豊かな自然環境と地域の特性を活かしたスポーツを楽しむ機運の醸成など、地域性を活かしたスポーツの促進に努めます。

イ 地域スポーツにおける優れた人材を確保するため、企業や大学の公開講座や講習会等の開催、地域クラブ・企業・大学との連携・協働を促進します。

[主な取組みの例]

- 各学校における本県の特徴である冬季スポーツ（スキー等）の体育授業等の実施
- 総合型クラブにおける地域資源を活かした冬季スポーツやレクリエーション活動の実施の促進



総合型クラブにおける冬季レクリエーション活動

- 企業チームによるジュニア向けのクリニックやスポーツ教室の開催
- 山形県競技スポーツ強化推進プロジェクト会議等を通じた企業・大学との連携協働の推進
- 企業スポーツ振興協議会を通じた企業チームや選手への支援

「スポーツツーリズム」

本県には、豊かな自然環境を活かしたアクティビティなど、スポーツツーリズムの目玉となる様々な観光資源があります。例えば、広大な樹氷のパノラマの中スキーやスノーボードが楽しめる蔵王、春から夏にかけて新緑の中スキー体験ができる月山、さらにはカヌーやシーカヤック体験、トレッキングやサイクリングなどにより雄大な自然を感じることができます。また、「スポーツ」を広く身体活動と捉えれば、居合道発祥の地で行われる居合道体験（武道ツーリズム）や出羽三山における山伏修行体験もスポーツツーリズムの1つと考えられます。



月山夏スキー



カヌー体験（写真提供：飯豊町）



トレッキング



居合道体験（写真提供：村山市）



山伏修行体験

第5章 推進体制

1 関係機関等との連携

スポーツの主役は県民であり、県民のスポーツ活動の推進に取り組むスポーツ団体やスポーツ関係者、事業者等もまた主役です。各主体が、それぞれの立場に応じて連携・協働しながら、スポーツの価値を最大限高め、感じることができるよう取り組みを進めていくことが必要です。

各主体に期待されることは次のとおりです。

(1) 県民

県民は、スポーツ活動の主体であり、生涯にわたって身近にスポーツに親しみ、かつ、スポーツを楽しむことができるよう、スポーツ活動を積極的に行うとともに、スポーツの推進に主体的に取り組むことが求められています。

(2) スポーツ団体²⁰及びスポーツ関係者²¹

スポーツ団体やスポーツ関係者は、県・市町村、事業者、他のスポーツ団体、他のスポーツ関係者、学校及び健康づくり関係者²²等と連携・協働しながら、アスリートの育成や競技力の向上にとどまらず、スポーツに親しむ人や機会を増やすため、スポーツの普及・振興に主体的に取り組むことが期待されています。

(3) 学校等

幼稚園や小・中・高等学校等においては、子どもの発達の特性・段階に応じ、自発的に多様な運動を経験できる機会の確保や健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めることが求められています。

また、家庭や地域社会との連携を図り、生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが求められています。

(4) 事業者

事業者は、スポーツについての理解と関心を高め、事業活動や社会貢献活動として、スポーツ活動を積極的に行うとともに、スポーツを通じた従業員の

²⁰ スポーツの振興のための事業を行うことを主たる目的とする団体(条例第2条第3号)。スポーツ協会、競技団体など。

²¹ スポーツ選手、スポーツの指導者、スポーツの競技会その他の催しの運営に携わる者その他スポーツの推進に関する活動を行う者(条例第2条第4号)。スポーツ推進委員など。

²² 医療機関、検診機関その他の県民の健康づくりに関係する者(条例第4条第2項)。

健康の保持及び増進などスポーツの推進に主体的に取り組むことが求められています。

(5) 健康づくり関係者

健康づくり関係者は、県・市町村、スポーツ団体及びスポーツ関係者等と連携・協力しながら、スポーツを通じた健康の保持及び増進について、専門的な知識・経験に基づき、必要な助言・指導を行うことが求められています。

(6) 県・市町村

県は、関係部局をはじめ、市町村やスポーツ団体など様々な主体との連携に努めながら、条例や本計画等に基づき、本県のスポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。

市町村は、県と必要な連携を図りながら、より住民に身近な立場からスポーツの推進に関する施策を行うことで、スポーツを通じた健康の保持及び増進や活力ある地域社会の実現等に寄与することが期待されています。

2 施策の進行管理

毎年度、施策の取組状況や進捗状況を把握し、進行管理と評価を行い、山形県スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）に報告するとともに、審議会や県民からの意見等を踏まえ、次年度以降の施策展開に向けた検討を行います。

なお、施策の進捗状況を図る目安として、次の8項目を参考指標として設定します。

<参考>本計画の進捗状況を把握するための参考指標

参考指標	指標値 (R11)	現状値		
		実績	年度	
基本方針1 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現				
成人のスポーツ実施率 ※スポーツ推進委員調べ	週1回以上	50%	40.0%	R6
	週3回以上	30%	15.9%	R6
県スポーツ・レクリエーション祭への参加者数	増加		2,073人	R6
基本方針2 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上				
スポーツや運動が「好き」「やや好き」の児童生徒の割合	90%		88.2%	R6
卒業後もスポーツや運動をしたいと「思う」「やや思う」中学生の割合	85%		84.0%	R6
基本方針3 国内外で活躍できるアスリートの育成等と競技力の向上				
オリンピック・パラリンピックのメダリスト	輩出		2	R3、R6
YAMAGATAドリームキッズ（在籍・修了生）の国際大会（アジア大会含む）及び全国大会入賞種目数	60種目 (R7～R11 平均)		56種目	R1～R5 平均
国民スポーツ大会の都道府県別順位（天皇杯順位）	20位台を目指す (順位の上昇)		33位	R6
基本方針4 スポーツによる共生社会の実現と地域活性化の推進				
県が誘致したスポーツ合宿団体による地域交流件数	15件 (R7～R11 累計)		3件	R5
障がい者スポーツ教室の参加人数	増加		1,249人	R5

【 参 考 資 料 】

第2期山形県スポーツ推進計画 参考データ集

目次

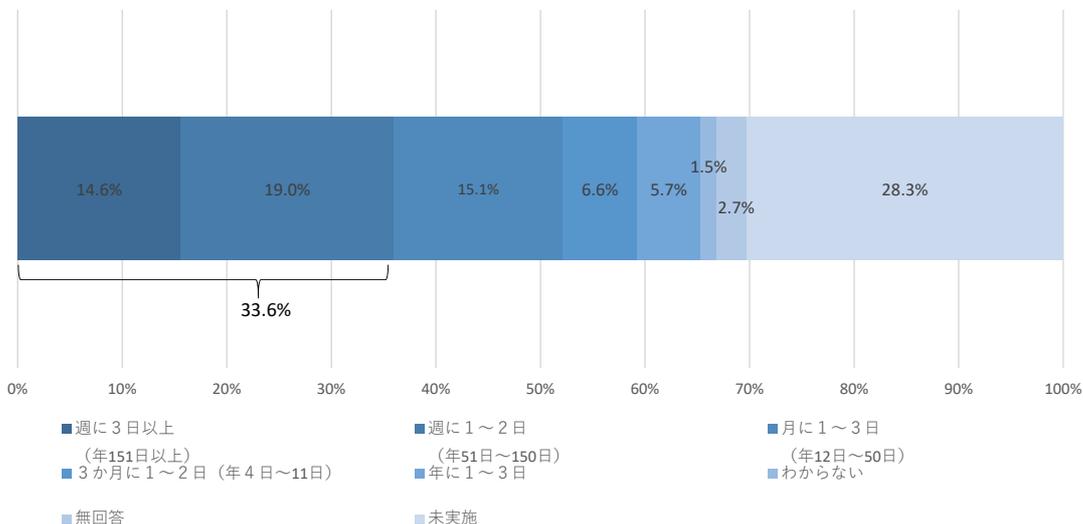
1. 成人のスポーツ実施率	58
2. 総合型地域スポーツクラブの状況	59
3. スポーツ少年団（小学生）の登録状況の推移	60
4. 子どもの体力・運動能力の年次推移	61
5. 子どもの運動習慣、運動やスポーツに関する意識	62
6. 中学校運動部活動加入率の推移	63
7. 高等学校運動部活動加入率の推移	63
8. 外部指導者数の推移	64
9. スポーツ推進委員数	64
10. 体育・スポーツ施設設置数、学校体育施設開放状況	65
11. 山形県のスポーツ関係団体等	65
12. 山形県スポーツ賞受賞者数の推移	66
13. 山形県スポーツタレント発掘事業～YAMAGATAドリームキッズ～	67
14. 山形県企業スポーツ振興協議会	69
15. 主要競技スポーツ成績	70
16. 山形県歴代オリンピック出場選手（夏季大会）	71
17. 山形県歴代オリンピック出場選手（冬季大会）	73
18. 山形県歴代パラリンピック出場選手	75
19. 山形県スポーツ推進条例	76
20. 山形県スポーツ推進審議会委員	79

1. 成人のスポーツ実施率①

出典：令和6年度県政アンケート結果

● 成人のスポーツ実施率（週1回以上）は33.6%（令和6年度）

1年間に行った運動やスポーツの頻度

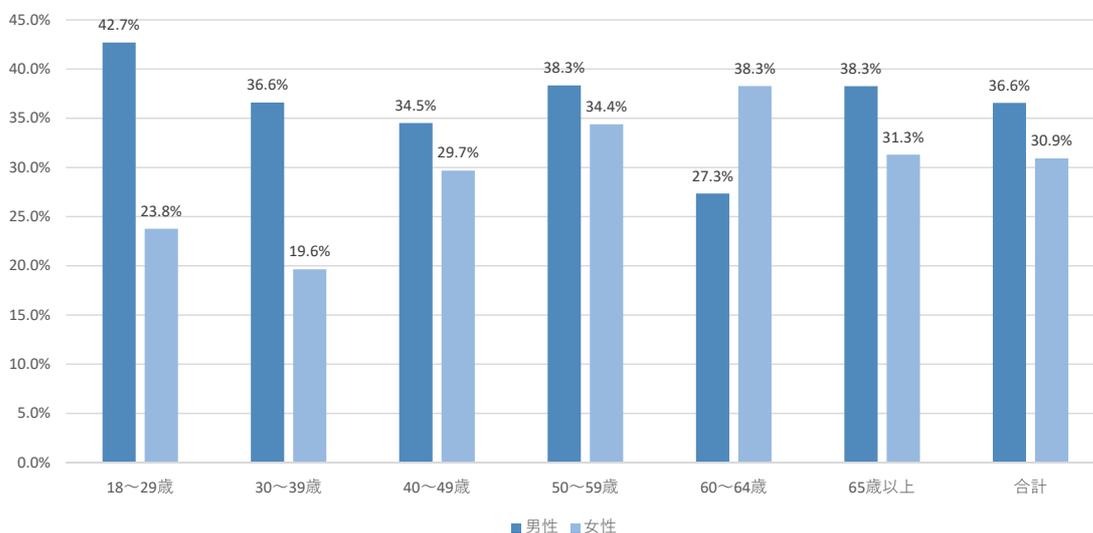


1. 成人のスポーツ実施率②

出典：令和6年度県政アンケート結果

- 60~64歳を除き、男性の方が女性よりスポーツ実施率は高くなっている
- 男性は60~64歳のスポーツ実施率が最も低いが、女性は最も高くなっている
- 特に18~39歳の女性のスポーツ実施率の低さが課題である

成人のスポーツ実施率

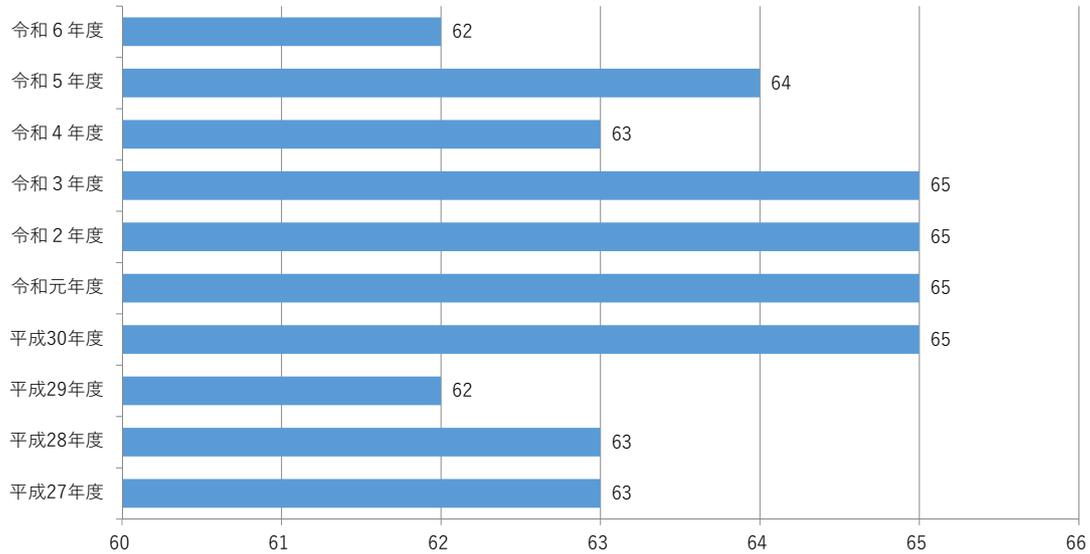


2. 総合型地域スポーツクラブの状況①

出典：県観光文化スポーツ部調べ

- 山形県内では、全35市町村に62クラブの総合型地域スポーツクラブが設立されている。
(令和6年4月現在)

山形県総合型地域スポーツクラブ設立数推移

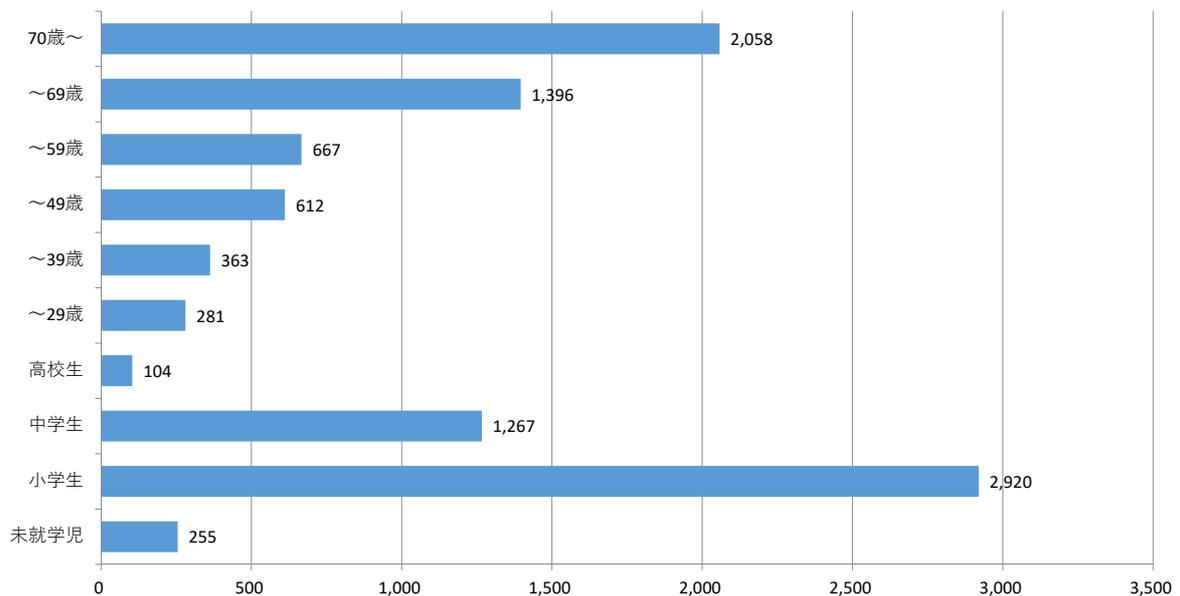


2. 総合型地域スポーツクラブの状況②

出典：令和5年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査

年代別会員数一覧

令和5年度末現在。N=46クラブ

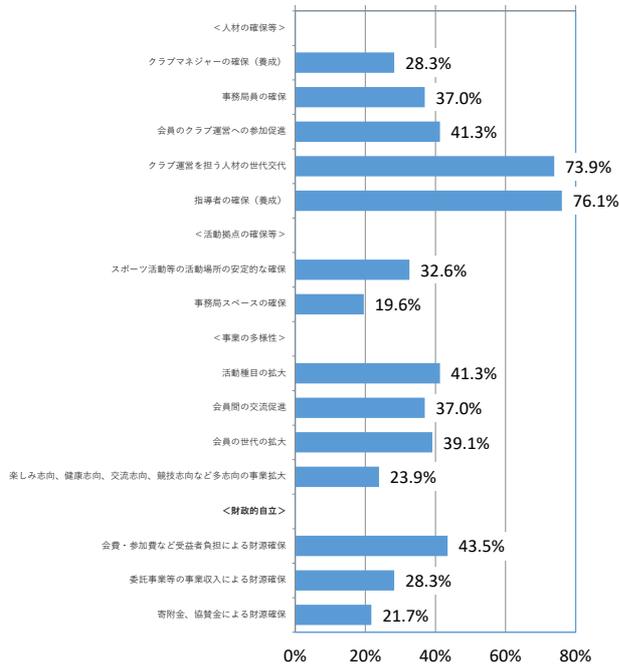


2. 総合型地域スポーツクラブの状況③

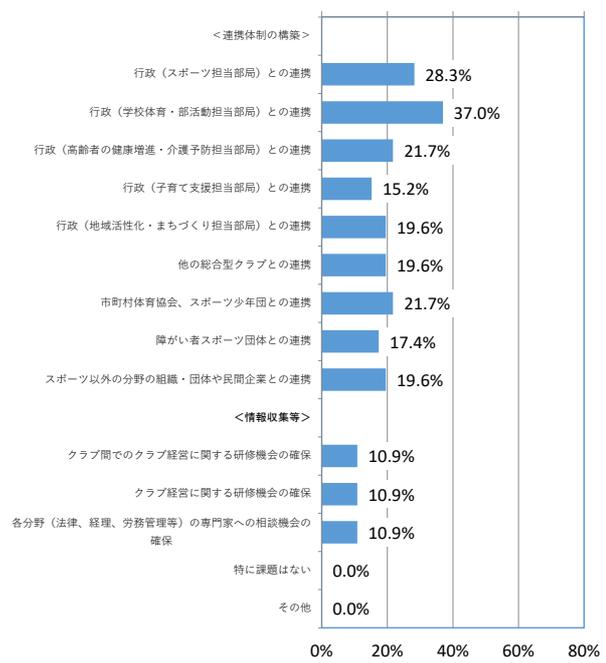
出典：令和5年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査

令和5年度末現在。N=46クラブ

クラブの現在の課題 (1/2)



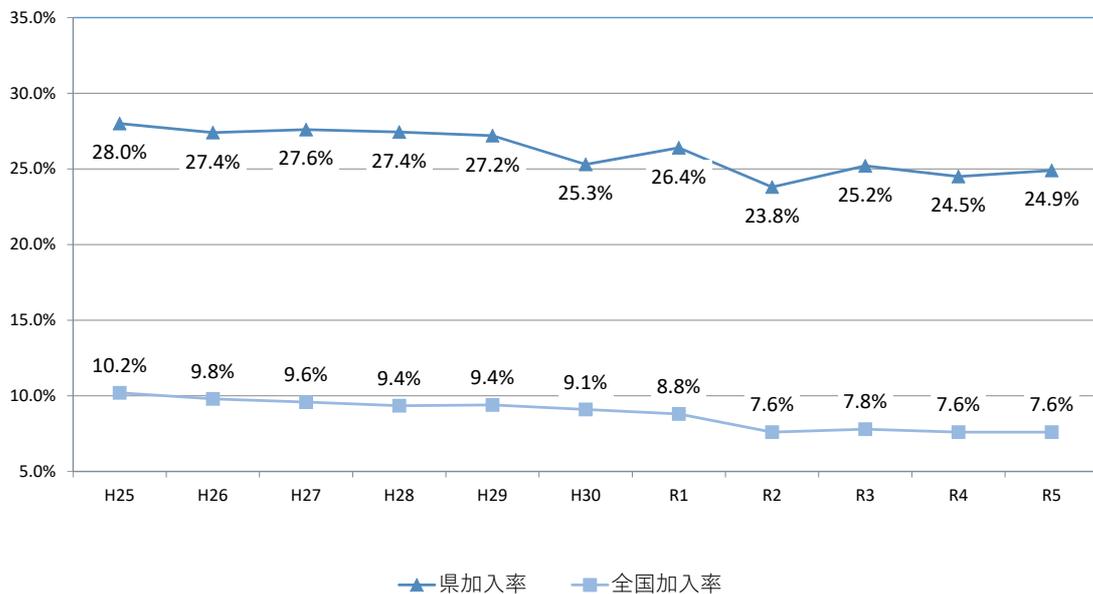
クラブの現在の課題 (2/2)



3. スポーツ少年団（小学生）の登録状況の推移①

出典：県観光文化スポーツ部調べ

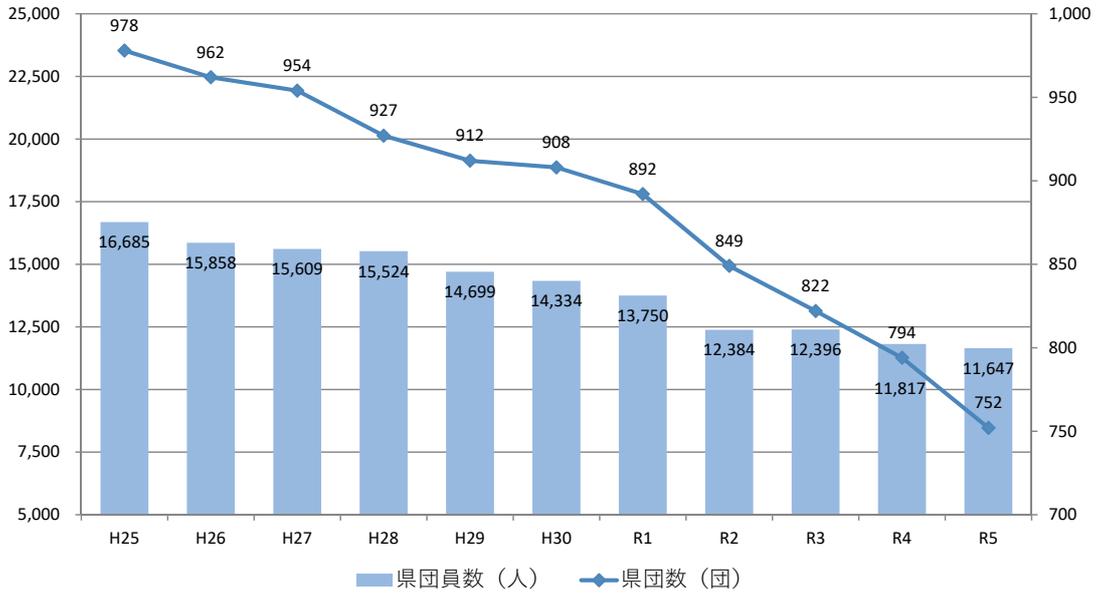
県スポーツ少年団（小学生）加入率 全国との比較



3. スポーツ少年団（小学生）の登録状況の推移②

出典：県観光文化スポーツ部調べ

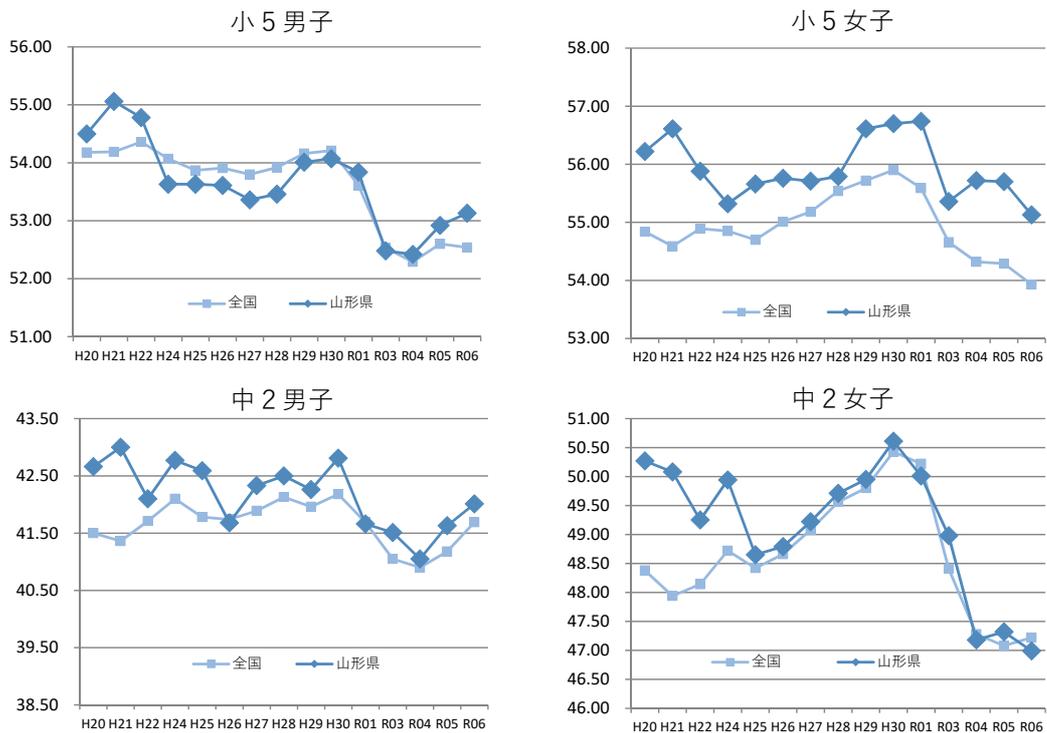
県スポーツ少年団（小学生）登録状況の推移



4. 子どもの体力・運動能力の年次推移

出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査

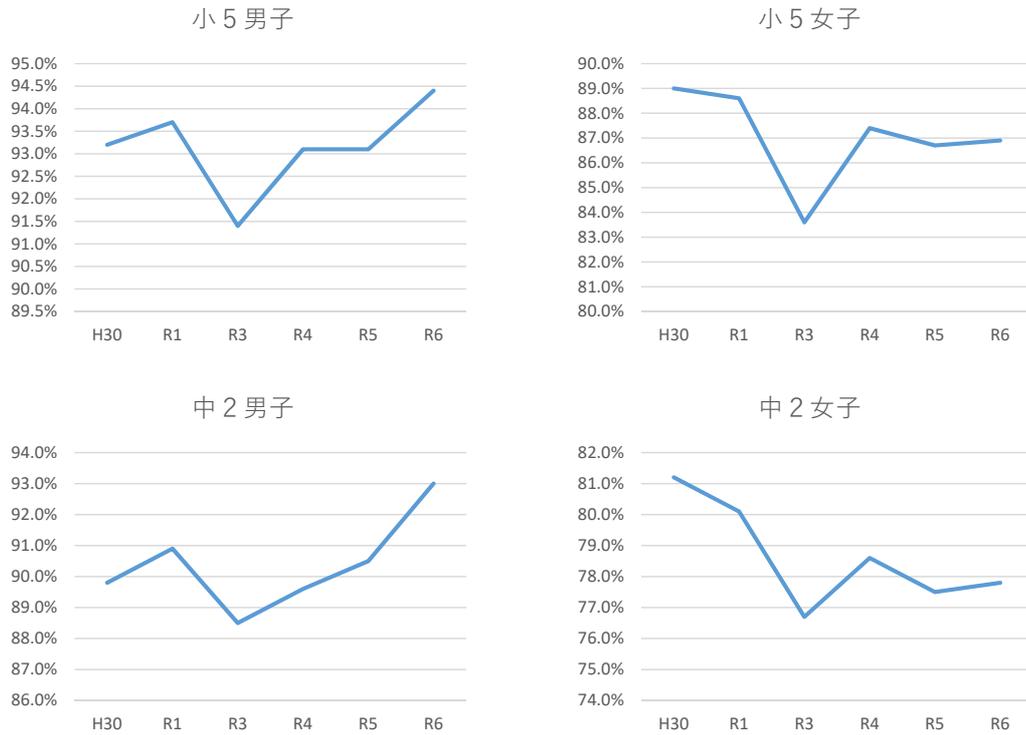
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「体力合計点」



5. 子どもの運動習慣、運動やスポーツに関する意識①

出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査

「運動は好きですか」という問いに対して「好き」「やや好き」と回答した当県の児童の割合



5. 子どもの運動習慣、運動やスポーツに関する意識②

出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査

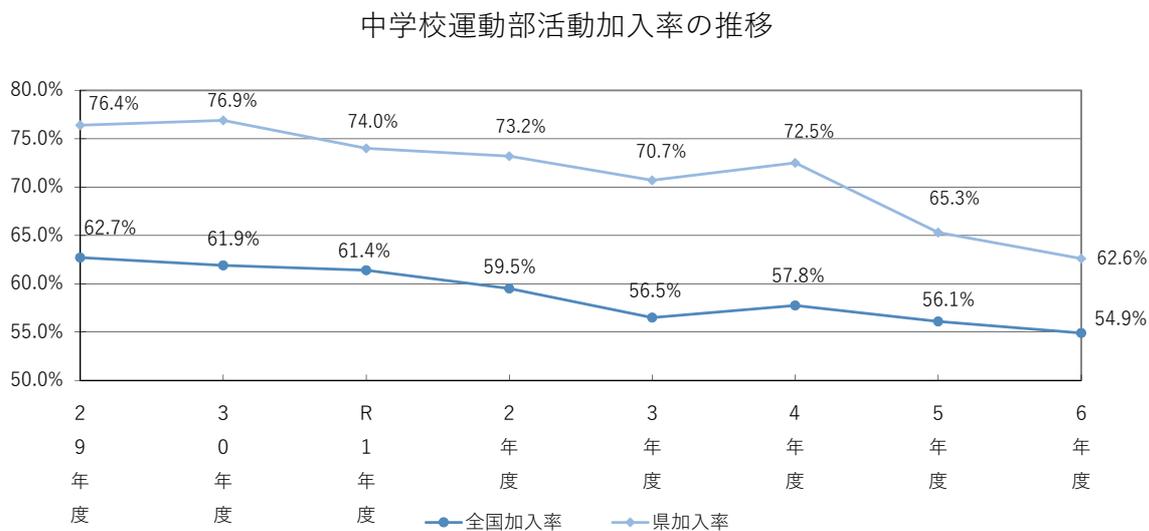
令和6年度質問紙調査による、運動習慣、運動やスポーツに関する意識の結果（抜粋）

は、全国平均と比べ良好な県平均値

質問内容	小学校5年生				中学校2年生				
	男子		女子		男子		女子		
	県平均	全国平均	県平均	全国平均	県平均	全国平均	県平均	全国平均	
① 運動部・スポーツクラブへの所属（加入）	運動部所属 複数回答可（運動部）	68.3%	66.7%	54.3%	51.0%	69.9%	68.5%	55.9%	52.3%
	運動部所属 複数回答可（スポーツクラブ）					47.1%	26.8%	31.7%	16.5%
	1週間の総運動時間の平均（分）（体育の授業を除く）	487.9	548.7	312.4	331.1	732.8	736.8	537.5	506.7
② 運動時間	土曜日運動時間の平均（分）	104.6	131.5	64.4	71.3	177.0	183.3	127.3	124.6
	日曜日運動時間の平均（分）	95.5	123.9	52.2	60.8	104.2	120.9	66.5	62.7
	部活動が占める時間 平日（分）					368.5	429.6	357.5	420.4
に運動部活動に関する状況	部活動が占める時間 土曜日（分）					132.0	159.8	135.0	163.7
	部活動が占める時間 日曜日（分）					39.8	68.8	32.2	55.5
	朝食を食べる（毎日食べる）	82.8%	81.3%	79.2%	79.5%	82.9%	81.7%	76.1%	74.5%
生活習慣の状況	1日の睡眠時間（6～8時間）					83.2%	82.4%	85.2%	82.5%
	1日の睡眠時間（8時間以上）	88.6%	88.7%	89.2%	90.1%				
運動やスポーツに関する意識	運動やスポーツをすること（好き・やや好き）	94.4%	93.2%	86.9%	86.2%	93.0%	90.3%	77.8%	76.8%
	あなたにとって運動やスポーツ（大切・やや大切）	94.7%	93.8%	90.4%	90.4%	94.5%	92.5%	86.5%	85.2%
	（保健）体育の授業は楽しい（楽しい・やや楽しい）	95.1%	94.6%	90.9%	90.0%	93.4%	91.4%	85.3%	83.7%
	中学校で授業以外に自主的に運動したい（思う）	90.8%	89.4%	86.1%	84.3%				
	中学校卒業後自主的に運動したい（思う）					89.5%	87.6%	78.4%	76.2%

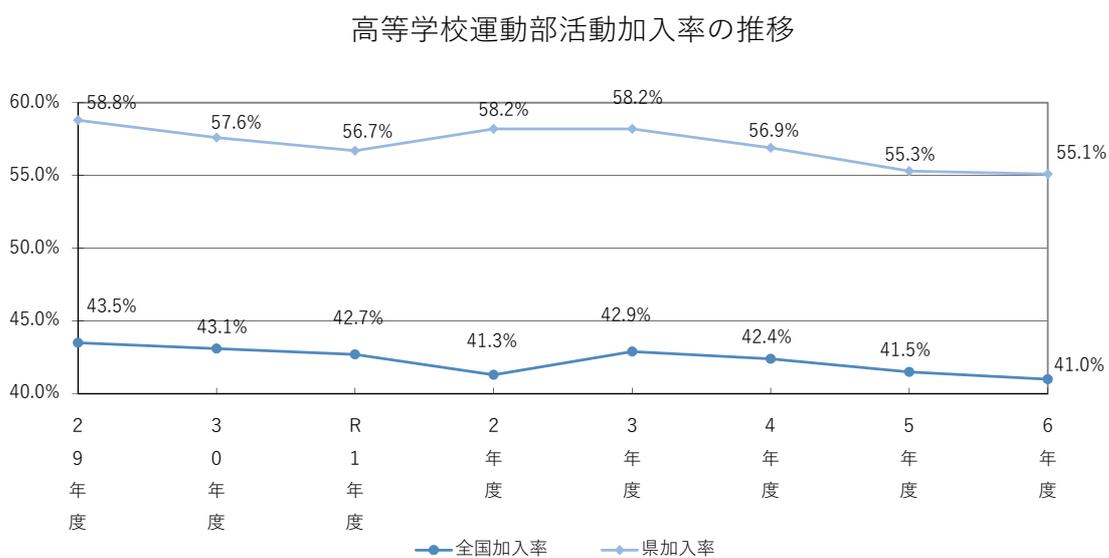
6. 中学校運動部活動加入率の推移

出典：全国中体連及び県中体連調査



7. 高等学校運動部活動加入率の推移

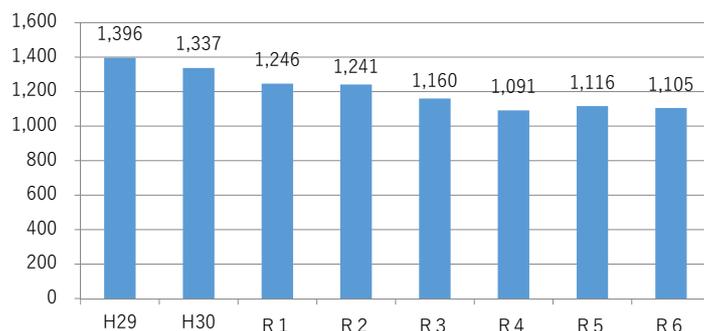
出典：全国高体連及び県高体連調査



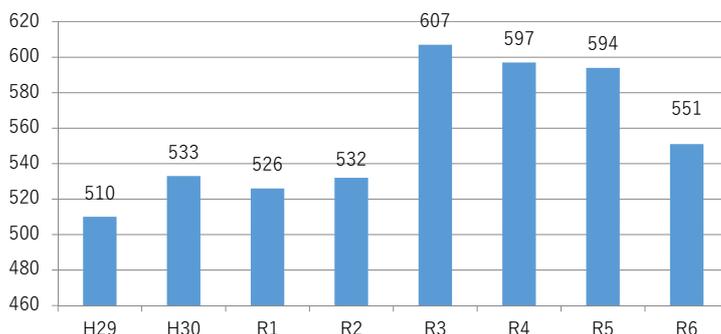
8. 外部指導者数の推移

出典：県教育委員会調べ

中学運動部活動外部指導者数の推移



高校運動部活動外部指導者数の推移



9. スポーツ推進委員数

出典：県観光文化スポーツ部調べ

市町村別スポーツ推進委員数

令和6年10月1日現在

市町村名	委員人数			市町村名	委員人数		
	男性	女性	計		男性	女性	計
山形市	76	36	112	真室川町	5	5	10
上山市	21	5	26	大蔵村	9	2	11
天童市	19	7	26	鮭川村	6	4	10
山辺町	9	2	11	戸沢村	7	3	10
中山町	9	5	14	米沢市	25	5	30
寒河江市	11	5	16	長井市	7	8	15
河北町	6	4	10	南陽市	19	5	24
西川町	8	2	10	高畠町	15	7	22
朝日町	5	3	8	川西町	19	3	22
大江町	8	3	11	小国町	6	4	10
村山市	16	9	25	白鷹町	11	7	18
東根市	8	9	17	飯豊町	7	5	12
尾花沢市	10	6	16	鶴岡市	74	17	91
大石田町	10	2	12	庄内町	10	4	14
新庄市	11	6	17	三川町	5	1	6
金山町	7	3	10	酒田市	59	18	77
最上町	8	2	10	遊佐町	12	6	18
舟形町	6	4	10	合計	544	217	761

10. 体育・スポーツ施設設置数、学校体育施設開放状況

出典：スポーツ庁 体育・スポーツ施設現況調査（R3）、県教育委員会調べ

体育・スポーツ施設設置数（R3）

総数	学校体育・スポーツ施設					大学・高専 体育施設	公共スポーツ施設			民間 スポーツ 施設
	計	小学校	中学校	高等 学校等	専修・ 各種学校		計	公立社会 教育施設に 付帯する スポーツ施設	社会体育 施設	
2,613	1,560	761	366	426	7	59	745	97	648	249

県立学校体育施設開放状況一覧表（R6）

区 分	屋外運動場		体育館		武道場		水泳プール（屋外）		水泳プール（屋内）	
	開放校数	開放率	開放校数	開放率	開放校数	開放率	開放校数	開放率	開放校数	開放率
高等学校(県立)	6	14.6%	15	36.6%	3	7.3%	0	0%	1	2.4%

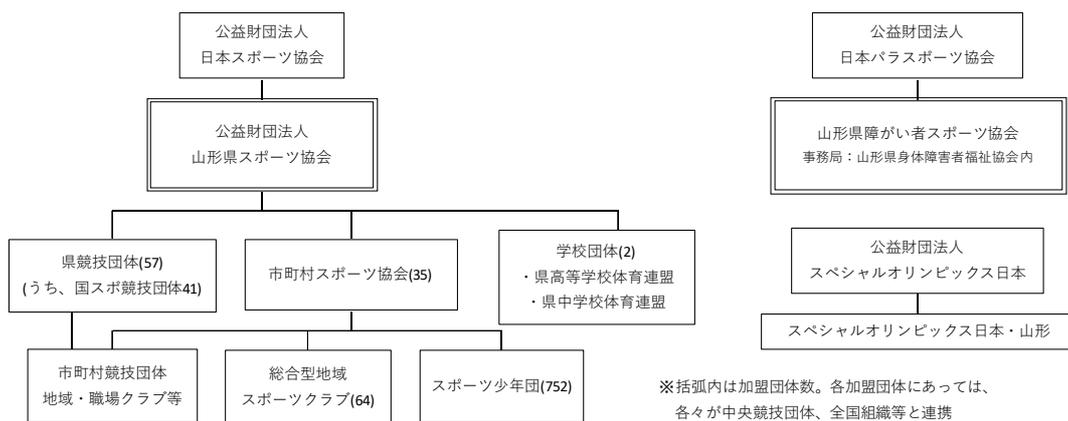
※R6開放施設校：21校

※R6県立高校：41校に占める割合

11. 山形県のスポーツ関係団体等

出典：県観光文化スポーツ部調べ

○山形県スポーツ協会・山形県障がい者スポーツ協会関係



※括弧内は加盟団体数。各加盟団体によっては、
各々が中央競技団体、全国組織等と連携

○生涯スポーツ・企業スポーツ関係（チーム）

- ・山形県スポーツ推進委員協議会（約760人）
事務局：県スポーツ振興課内
- ・山形県総合型地域スポーツクラブ協議会
事務局：県スポーツ協会内
- ・山形県企業スポーツ振興協議会（42）
事務局：県スポーツ振興課内
- ・プレステージ・インターナショナル・アランマール（企業チーム）
バレーボール SVリーグ女子
（株）プレステージ・インターナショナル山形BPOパーク（酒田市）

○プロスポーツチーム

- ・モンテディオ山形
サッカー J2リーグ
（株）モンテディオ山形（天童市）
- ・バスラボ山形ワイヴァンズ
バスケットボール B2リーグ
（株）バスラボ山形（山形市）

12. 山形県スポーツ賞受賞者数の推移

出典：県観光文化スポーツ部調べ

山形県スポーツ賞 受賞者 / 平成15年度制度全面改正

令和6年4月1日現在

	大賞		栄光賞		栄誉賞		敢闘賞		功労賞	地域 スポーツ 振興賞	特別賞	計 /人・団体
		うち 障がい者		うち 障がい者		うち 障がい者		うち 障がい者				
平成15年度			53		24		37	20	1	-		115
16年度			26		25	1	27	7		3		81
17年度	2	1	79		27	1	39	16	2	3		152
18年度			82	1	8	1	40	7		3		133
19年度			58	2	21	1	52	10	1	3		135
20年度	1		75	2	8		42	10		3	1	130
21年度	2	1	64		10		30	8		2		108
22年度			45	2	9		59	9		2		115
23年度	1		22	1	5		50	4		2		80
24年度			36	5	20	1	60	5		2		118
25年度			59	2	26	2	34	5		2	1	122
26年度			41	1	13	2	39	9	1	2		96
27年度	1		57	7	26	1	17	7		2		103
28年度	1		36	2	13	4	38	13	1	2		91
29年度	2	1	69	2	14	1	33	8		2		120
30年度	1	1	60	4	20	2	20	5		2		103
令和元年度	1	1	66	6	13	2	14	2		2		96
2年度			30		10					2		42
3年度	4	2	40	4	8	2	4			2	1	59
4年度	1	1	45	2	16	2	22	17		2		86
5年度			54	2	25	1	24	12	1	2	2	108
合計	17	8	1,097	45	341	24	681	174	7	45	5	2,193

13. 山形県スポーツタレント発掘事業～YAMAGATAドリームキッズ～①

出典：山形県スポーツタレント発掘事業実行委員会

■事業のねらい

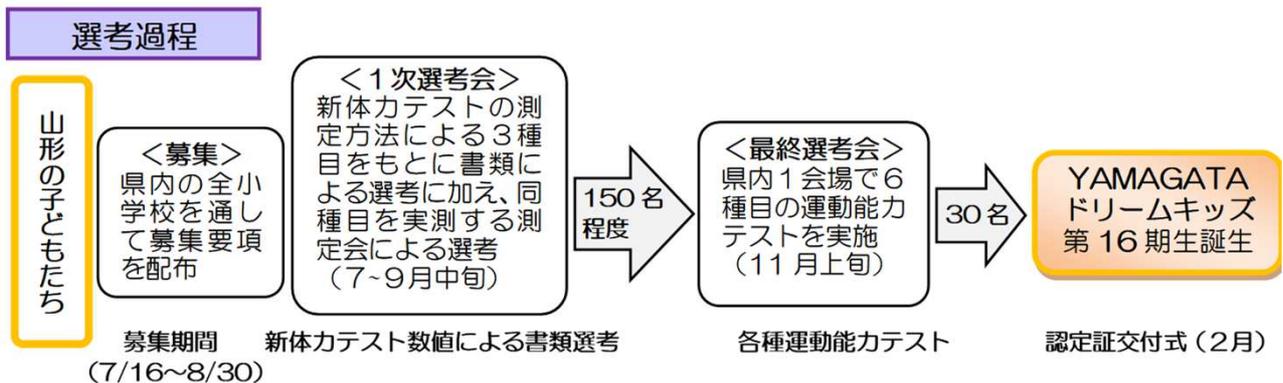
1. オリンピックや国際大会などトップレベルで活躍する選手の輩出を目指します。
2. 世界レベルの大会で活躍できる選手を目指す子どもたちの“夢の実現”に向け、リーダーとしての資質を高め、本県の次世代の牽引役として育成します。
3. スポーツのみならず、社会適応能力、人間性、国際性などを備え持つ子どもたちを育成します。

■推進組織 山形県スポーツタレント発掘事業実行委員会

- 主催 山形県
 会長 吉村 美栄子 山形県知事
 構成 山形県教育委員会、公益財団法人山形県スポーツ協会、市町村教育委員会、市町村スポーツ協会、山形県小学校体育連盟連絡協議会、山形県中学校体育連盟、山形県高等学校体育連盟、山形県スポーツ推進委員協議会、山形県スポーツ少年団、山形県企業スポーツ振興協議会、中央競技団体、県競技団体、山形大学、仙台大学、日本オリンピック委員会（JOC）、日本スポーツ振興センター（JSC）、日本スポーツ協会（JSPO）
 事務局 山形県観光文化スポーツ部 スポーツ振興課 競技力向上・アスリート育成室

■発掘 トライアル（選考）について

小学校3・4年生を対象に1次選考会及び最終選考会を実施して毎年30名を選考します。



■育成 アカデミー事業について

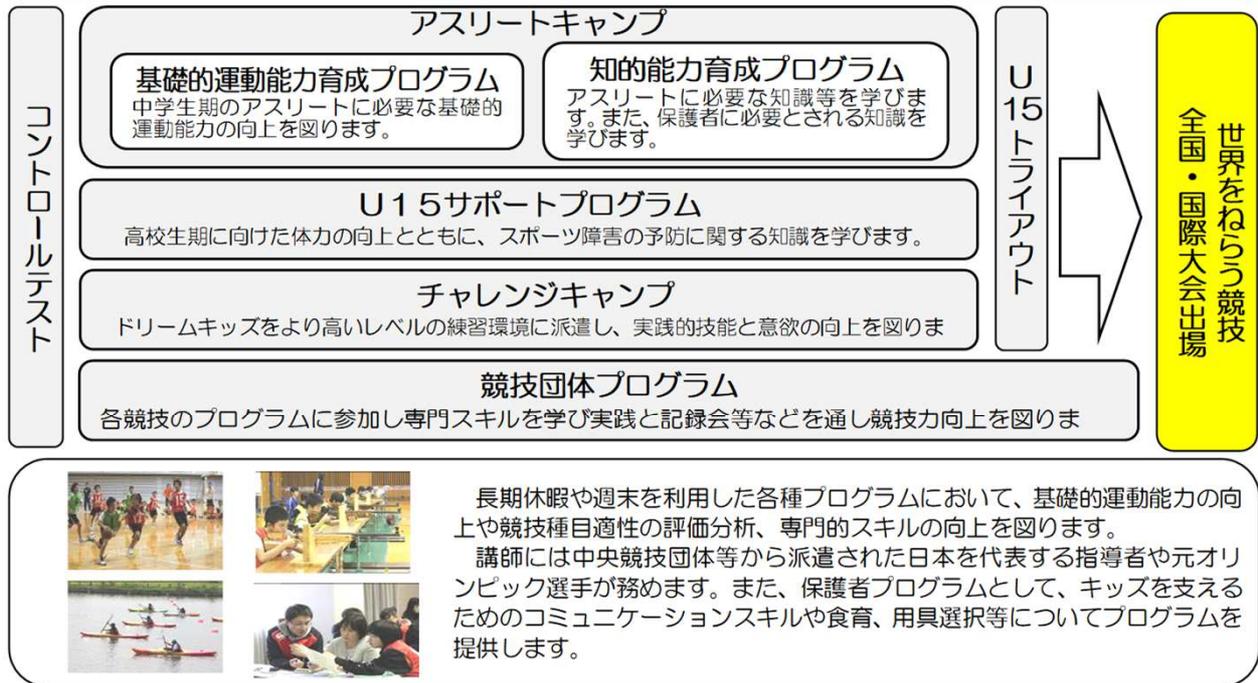
U12育成プラン 小学5～6年生までの2年間で適性の高い種目を見つけます



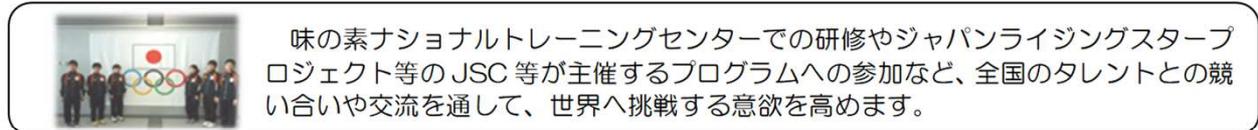
13. 山形県スポーツタレント発掘事業～YAMAGATAドリームキッズ～②

出典：山形県スポーツタレント発掘事業実行委員会

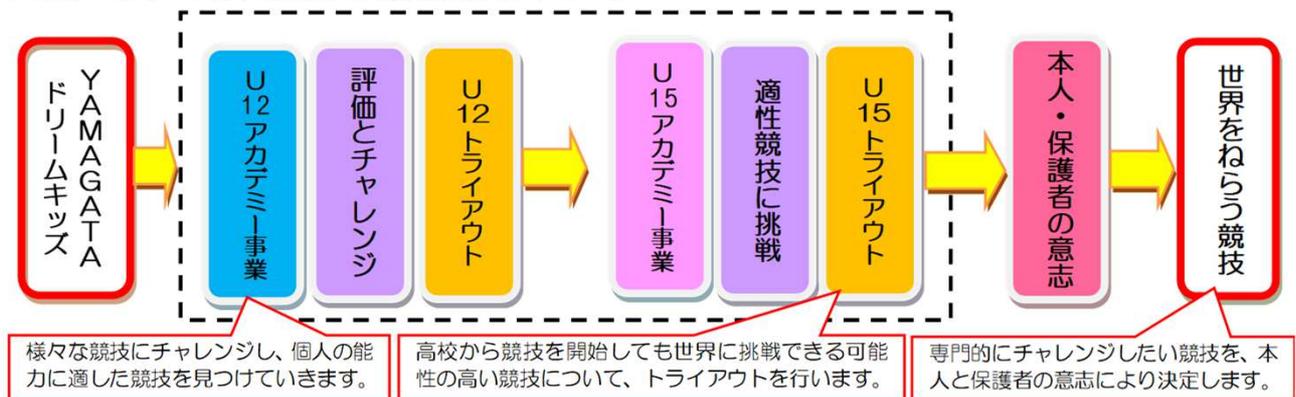
U15育成プラン 中学1年～3年生までの3年間で適性競技に挑戦します



その他の活動 JSC等と連携したプログラムに参加しています



■ 選 択 世界をねらう競技決定について



ドリームキッズの在籍状況

令和6年10月現在

人数(人)	男子	女子	村山	最上	置賜	庄内	合計	応募者数	応募率*%
第11期生(R1選考)	15	15	17	4	5	4	30	440	2.52
第12期生(R2選考)	12	11	12	1	3	7	23	449	2.62
第13期生(R3選考)	15	14	17	2	2	8	29	331	1.99
第14期生(R4選考)	13	15	15	3	5	5	28	238	1.47
第15期生(R5選考)	15	15	22	0	4	4	30	221	1.39
合計	70	70	83	10	19	28	140		

*応募率…県内小学校3～4年生の全児童数に占める応募者数の割合

14. 山形県企業スポーツ振興協議会

出典：山形県企業スポーツ振興協議会

【設立趣旨】

- ベにばな国体（平成4年度開催）を契機に広まった企業スポーツ活動への支援の輪を広げること
- 本県スポーツ界の活性化と競技力向上に寄与すること
- 県内スポーツ選手の人材確保に協力すること

会員企業一覧

1	アイジー工業株式会社	11	株式会社齋藤農機製作所	21	東北電力株式会社	31	株式会社山形銀行	41	株式会社ヤマザワ
2	株式会社吾妻スポーツ	12	株式会社さくらんぼテレビジョン	22	日東ベスト株式会社	32	公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会	42	ヤマリョー株式会社
3	エヌ・デーソフトウェア株式会社	13	渋谷建設株式会社	23	日本地下水開発株式会社	33	山形県スポーツ用品小売商業協同組合	令和6年度/42企業	
4	遠藤商事株式会社	14	株式会社荘内銀行	24	株式会社バスラボ	34	山形建設株式会社		
5	株式会社置環	15	スズキハイテック株式会社	25	株式会社ブレステージ・インターナショナル山形BPOパーク	35	株式会社山形新聞社		
6	株式会社カスカワスポーツ	16	株式会社高見屋旅館	26	前田製管株式会社	36	山形信用金庫		
7	加藤総業株式会社	17	株式会社ダイバーシティメディア	27	升川建設株式会社	37	株式会社山形テレビ		
8	株式会社かわでん	18	鶴岡信用金庫	28	株式会社丸定	38	山形パナソニック株式会社		
9	株式会社きらやか銀行	19	株式会社テレビユー山形	29	株式会社メコム	39	山形放送株式会社		
10	社会医療法人公徳会	20	株式会社でん六	30	株式会社モンテディオ山形	40	株式会社山形ミートランド		

15. 主要競技スポーツ成績

出典：県観光文化スポーツ部調べ

主要大会・競技別成績

1 国民スポーツ大会（国民体育大会）

2025.1.27 ※現時点での成績

回	開催県 (冬季)	年	冬季大会		本大会		総合成績	
			得点	順位	得点	順位	得点	順位
75	鹿児島(富山)	R 2	177	4位	延期			
76	三重(愛知・岐阜・秋田中止)	R 3	94	10位	中止			
77	栃木(栃木・秋田)	R 4	115	13位	646.25	45位	761.25	40位
特別	鹿児島(青森・岩手)	R 5	143	10位	573.5	47位	716.50	43位
78	佐賀(北海道・山形)	R 6	219.5	3位	618.5	44位	838.00	33位

2 駅伝競走大会

年度	都道府県対抗駅伝		全国高校駅伝		全国中学駅伝	
	男子順位 (第1回第23位)	女子順位 (第23回第3位)	男子順位 (第18回第4位)	女子順位 (第14回第11位)	男子順位 (第9回第5位)	女子順位 (第24回第4位)
令和2年度	中止	中止	71回 30位 東海山形	32回 39位 山形城北	中止	
令和3年度	中止	第40回 43位	72回 35位 東海山形	33回 42位 東海山形	29回 21位 山形十	29回 10位 山形十
令和4年度	第28回 45位	第41回 24位	73回 39位 東海山形	34回 39位 山形城北	30回 15位 山形十	30回 22位 山形十
令和5年度	第29回 38位	第42回 34位	74回 43位 東海山形	35回 42位 山形城北	31回 34位 山形十	31回 25位 山形十
令和6年度	第30回 36位	第43回 30位	75回 41位 酒田南	36回 50位 山形城北	32回 13位 山形五	32回 10位 山形十

3 高校野球（甲子園大会）

年	代表校	対戦成績	（選抜：H17・羽黒高校・ベスト4 夏：H25・日大山形・ベスト4）
令和2年	鶴岡東高校	(交流試合) 鶴岡東 5-3 日本航空石川(石川)	
令和3年	日大山形高校	1回戦 4-1 米子東(鳥取) 2回戦 4-3 浦和学院(埼玉) 3回戦 4-5 石見智翠館(島根) ベスト1 6	
令和4年	鶴岡東高校	1回戦 12-7 盈進(広島) 2回戦 3-8 近江(滋賀)	
令和5年	日大山形高校	1回戦 2-9 おかやま山陽(岡山)	
令和6年	鶴岡東高校	1回戦 2-1 聖光学院(福島) 2回戦 0-1 早稲田実業(西東京)	

4 サッカー（モンテディオ山形）

シーズン年	リーグ	成績	天皇杯サッカー
令和2年度(2020年)	J 2	7位 17勝:14敗:11分	—
令和3年度(2021年)	J 2	7位 20勝:14敗:8分	2回戦敗退
令和4年度(2022年)	J 2	6位 17勝:12敗:13分 プレーオフ2回戦敗退	2回戦敗退
令和5年度(2023年)	J 2	5位 21勝:17敗:4分 プレーオフ準決勝敗退	3回戦敗退
令和6年度(2024年)	J 2	※4位 20勝:12敗:6分 プレーオフ準決勝敗退	3回戦敗退

5 バスケットボール（パシフィック山形ワイヴァンズ）

シーズン年	B2リーグ	プレーオフ	天皇杯バスケ
令和元年度(2019/20)	6位 8勝39敗 (B2東地区)	—	—
令和2年度(2020/21)	5位 31勝29敗 (B2東地区)	—	—
令和3年度(2021/22)	5位 19勝33敗 (B2東地区)	—	3次ラウンド敗退
令和4年度(2022/23)	6位 26勝34敗 (B2東地区)	—	3次ラウンド敗退
令和5年度(2023/24)	3位 31勝29敗 (B2東地区)	B2: 4位	2次ラウンド敗退

6 バレーボール（プレステージインターナショナル・アランマーレ）

シーズン年	リーグ	成績	皇后杯バレー	国民スポーツ大会
令和元年度(2019/20)	V.LEAGUE DIVISION2	11勝 10敗 5位 ブロック賞 柳沢繁子選手	東北ブロック敗退	1回戦敗退
令和2年度(2020/21)	V.LEAGUE DIVISION2	10勝 4敗 3位	—	延期
令和3年度(2021/22)	V.LEAGUE DIVISION2	レギュラーラウンド: 3位13勝5敗 ファイナルステージ: 3位1勝2敗	ファイナルラウンド2回戦敗退	中止
令和4年度(2022/23)	V.LEAGUE DIVISION2	レギュラーラウンド: 1位18勝2敗 ファイナルステージ: 優勝 V1昇格	ファイナルラウンド1回戦敗退	1回戦敗退
令和5年度(2023/24)	V.LEAGUE DIVISION1	レギュラーラウンド: 12位0勝22敗	ファイナルラウンド2回戦敗退	7位入賞

7 中学校・高等学校関係各種大会入賞数（全国中学選手権大会の令和2年～4年について、（ ）内は人数）

年度	全国中学体育大会	全国中学選手権大会	全国高校総体	全国高校選手権大会
令和2年度	中止	中止	中止	—
令和3年度	6(男2・女4)	20(男17・女16)	40(男25・女15)	2(男1・女1)
令和4年度	7(男4・女3)	23(男16・女26)	55(男29・女26)	1(男0・女1)
令和5年度	13(男8・女5)	18(男10・女8)	55(男27・女28)	1(男0・女1)
令和6年度	※3(男0・女3)	10(男6・女4)	※25(男14・女11)	0(男0・女0)

8 オリンピック出場選手・成績

開催年	開催地	本県関係者選手
令和3年 (2021)	東京(日本)	ボクシング 岡澤 セオン: 男子ウエルター級2回戦敗退(ベスト16)(日大山形高校出身) アーチェリー 中村 美樹: 女子団体準々決勝敗退(ベスト8)、個人3回戦敗退(ベスト16)(鶴岡工業高校出身) バレーボール 高梨 健太: 決勝トーナメント準々決勝敗退(ベスト8)(山形城北高校出身) 水球 三浦 里佳子: 予選リーグ5位(0勝4敗)(山形工業高校出身) 鈴木 透生: 予選リーグ5位(1勝4敗)(山形一中出身)
令和4年 (2022)	北京(中国)	スピードスケート 森重 航: 男子500m3位(銅メダル)、1000m16位(山形中央高校出身) 一戸 誠太郎: 男子1500m10位、5000m12位、マススタート8位(山形中央高校出身) 小田 卓朗: 男子1500m17位(山形中央高校出身) 小坂 凜: 女子 マススタート 出場なし(山形中央高校出身) スキー 鈴木 紗織: フリースタイル・ハーフパイプ15位(山形中央高校出身) バイアスロン 尾崎 光輔: 混合リレー18位、20km82位、10kmスプリント44位、12.5km追抜き51位(北村山高校出身)
令和6年 (2024)	パリ(フランス)	レスリング 鏡 優翔: 女子76kg級1位(金メダル)(山形市出身) ボクシング 岡澤 セオン: 男子71kg級2回戦敗退(ベスト16)(日大山形高校出身) バレーボール 高橋 健太郎: 決勝トーナメント準々決勝敗退(ベスト8)(米沢中央高校出身) 水球 鈴木 透生: 予選リーグ6位(1勝4敗)(山形一中出身)

16. 山形県歴代オリンピック出場選手（夏季大会）①

出典：県観光文化スポーツ部調べ

夏季大会：51名

メダル数 金：2 銀：1 銅：4

	氏名	出身地	競技名	開催国：西暦	大会名	種目名	記録	備考 ●本県以外所属で参加
1	茂木善作	酒田市	陸上競技	ベルギー 1920年	第7回 アントワープ大会	マラソン	20位 (2時間51分09秒4)	五輪旗初使用
2	柴田タカ	山形市	陸上競技	アメリカ 1932年	第10回 ロサンゼルス大会	女子100m	予選落選 記録なし	
3	笹原正三	山形市	レスリング	オーストラリア 1956年	第16回 メルボルン大会	フリースタイル フェザー級	金メダル	
4	大沼賢治	藤島町	ウェイト リフティング	オーストラリア 1956年	第16回 メルボルン大会	ライト級 (67.5kgまで)	4位入賞 (367.5kg)	
				イタリア 1960年	第17回 ローマ大会	ライト級 (67.5kgまで)	失格	
5	東海林 周太郎	山形市	バスケット ボール	オーストラリア 1956年	第16回 メルボルン大会		10位	
				イタリア 1960年	第17回 ローマ大会		15位	
6	永井 隆	山形市	レスリング	イタリア 1960年	第17回 ローマ大会	フリースタイル ミドル級	8位	
7	伊沢 まき子	高島町	陸上競技	日本 1964年	第18回 東京大会	女子200m	予選落選(25秒4)	
8	大江 英雄	山形市	漕 艇	日本 1964年	第18回 東京大会	かじ付きフォア	敗者復活戦敗退 (7分31秒60)	
9	宮崎 欣也	鶴岡市	陸上競技	日本 1964年	第18回 東京大会	走り高跳び	予選落選(1.95m)	
10	林崎 昭裕	米沢市	ライフル 射撃	日本 1964年	第18回 東京大会	スモール・ボア ・ライフル伏射	6位入賞(594)	
11	渋谷 多喜	酒田市	体 操	日本 1964年	第18回 東京大会		出場せず	
				メキシコ 1968年	第19回 メキシコ大会		出場せず	
12	阿部 成章	鶴岡市	バスケット ボール	西ドイツ 1972年	第20回 ミュンヘン大会		14位	
				カナダ 1976年	第21回 モントリオール大会		11位	
13	宗田 研二	新庄市	バスケット ボール	西ドイツ 1972年	第20回 ミュンヘン大会		14位	
14	島影 せい子	酒田市	バレーボール	西ドイツ 1972年	第20回 ミュンヘン大会		銀メダル	
15	斎藤 真	酒田市	レスリング	西ドイツ 1972年	第20回 ミュンヘン大会	グレコローマン (100kg級)	2回戦敗退	
16	齋藤 隆	酒田市	ウェイト リフティング	カナダ 1976年	第21回 モントリオール大会	フェザー級	4位入賞(262.5kg)	
17	石垣 仁	遊佐町	ボクシング	カナダ 1976年	第21回 モントリオール大会	バンタム級	3回戦敗退	
18	菅藤 弘	尾花沢市	ボクシング	ソ 連 1980年	第22回 モスクワ大会			日本不参加
19	佐々木 保重	鶴岡市	ウェイト リフティング	アメリカ 1984年	第23回 ロサンゼルス大会	67.5kg級	6位入賞(302.5kg)	
				韓 国 1988年	第24回 ソウル大会	67.5kg級	失格	
20	我孫子 薫	藤島町	ウェイト リフティング	アメリカ 1984年	第23回 ロサンゼルス大会	60kg級	4位入賞(270.0kg)	
21	武田 聡	山形市	水 泳	韓 国 1988年	第24回 ソウル大会	200mバタフライ 200m個人メドレー	15位(2分02秒18) 予選落ち (2分08秒11)	
22	斎藤 清	立川町	卓 球	韓 国 1988年	第24回 ソウル大会	シングルス ダブルス	予選リーグ敗退 予選敗退	
23	奥山 恵二	(山形市)	レスリング	スペイン 1992年	第25回 バルセロナ大会	フリースタイル (57kg級)	3回戦敗退	山形南高校教諭
24	赤石 光生	(山形市)	レスリング	スペイン 1992年	第25回 バルセロナ大会	フリースタイル (68kg級)	銅メダル	ユニマット山形所属 ●第23回ロサンゼルス大会 フリースタイル(62kg級) 銀メダル ●第24回ソウル大会 フリースタイル (68kg級) 4位入賞
25	坂上 洋子	(南陽市)	柔 道	スペイン 1992年	第25回 バルセロナ大会	72kg超級	銅メダル	山形県教育委員会所属
26	松永 政行	(山形市)	体 操	スペイン 1992年	第25回 バルセロナ大会	団体総合 平行棒	銅メダル(578.250) 銅メダル(9.800)	河合楽器山形所属
27	元木 康年	酒田市	レスリング	オーストラリア 2000年	第27回 シドニー大会	グレコローマン スタイル (63kg級)	9位 予選リーグ敗退	
28	竹屋 美紀子	河北町	カヌー	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会	レーシング、 カヤックフォア 500m	9位(1分36秒873)	
				中 国 2008年	第29回 北京大会	フラットウォー ター、 カヤックペア500m フラットウォー ター、 カヤックフォア 500m	5位 6位	

16. 山形県歴代オリンピック出場選手（夏季大会）②

出典：県観光文化スポーツ部調べ

29	白田 美由希	西川町	カヌー	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会	スプリント、 カヤックシングル 500m	準決勝敗退 (2分03秒076)	
30	高橋 みゆき	山形市	バレー ボール	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会		5位入賞	
				中国 2008年	第29回 北京大会		5位	
31	吉原 知子	(天童市)	バレー ボール	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会		主将 5位入賞	東北バイオニア所属 ●第25回バルセロナ大会 5位入賞 ●第26回アトランタ大会 予選リーグ敗退
32	佐々木 みき	(天童市)	バレー ボール	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会		5位入賞	東北バイオニア所属
33	大神 雄子	山形市	バスケット ボール	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会		10位	
34	原田 めぐみ	南陽市	フェンシング	ギリシャ 2004年	第28回 アテネ大会	エペ個人	28位、2回戦敗退	
				中国 2008年	第29回 北京大会	エペ個人	15位、2回戦敗退	
35	栗原 恵	(天童市)	バレー ボール	中国 2008年	第29回 北京大会		5位	東北バイオニア所属 ●第28回アテネ大会 5位入賞
36	多治見 麻子	(天童市)	バレー ボール	中国 2008年	第29回 北京大会		5位	東北バイオニア所属 ●第25回バルセロナ大会 5位入賞 ●第26回アトランタ大会 予選リーグ敗退
37	三澤 樹知	天童市	新体操	中国 2008年	第29回 北京大会	女子団体	10位(30.85) 予選敗退	
38	安孫子 充裕	山形市	陸上競技	中国 2008年	第29回 北京大会	4×400mリレー	14位(3分04秒18) 予選敗退	
39	池田 久美子	酒田市	陸上競技	中国 2008年	第29回 北京大会		20位(6.47m) 予選敗退	
40	豊田 陽平	(天童市)	サッカー	中国 2008年	第29回 北京大会		15位、0勝3敗 予選グループ敗退	モンテディオ山形所属
41	小関 也朱篤	鶴岡市	水泳	ブラジル 2016年	第31回 リオデジャネイロ大会	100m平泳ぎ 200m平泳ぎ 4×100mメドレー リレー	6位入賞 5位入賞 5位入賞	
42	原田 喜市	山形市	馬術	ブラジル 2016年	第31回 リオデジャネイロ大会	馬場馬術	一次予選敗退(45位)	
43	岡澤 セオン	山形市	ボクシング	日本 2021年	第32回 東京大会	ウェルター級	準々決勝敗退 (ベスト8)	
44	中村 美樹	鶴岡市	アーチェリー	日本 2021年	第32回 東京大会	女子団体 女子個人	準々決勝敗退 (ベスト8) 3回戦敗退 (ベスト16)	
45	三浦 里佳子	山形市	水球	日本 2021年	第32回 東京大会		予選リーグ5位、 0勝4敗 予選リーグ敗退	
46	鈴木 透生	山形市	水球	日本 2021年	第32回 東京大会		予選リーグ5位、 1勝4敗 予選リーグ敗退	
47	高梨 健太	山形市	バレーボール	日本 2021年	第32回 東京大会		準々決勝敗退 (ベスト8)	
48	岡澤 セオン	山形市	ボクシング	フランス 2024年	第33回 パリ大会	男子71kg級	2回戦敗退 (ベスト16)	
49	鏡 優翔	山形市	レスリング	フランス 2024年	第33回 パリ大会	フリースタイル (76kg級)	金メダル	
50	鈴木 透生	山形市	水球	フランス 2024年	第33回 パリ大会		予選リーグ6位、 1勝4敗 予選リーグ敗退	
51	高橋 健太郎	川西町	バレーボール	フランス 2024年	第33回 パリ大会		準々決勝敗退 (ベスト8)	

17. 山形県歴代オリンピック出場選手（冬季大会）①

出典：県観光文化スポーツ部調べ

冬季大会：25名

メダル数 金：0 銀：0 銅：2

	氏名	出身地	競技名	国・西暦	大会名	種目名	記録	備考
1	本間 悌次	酒田市	アイスホッケー	ドイツ 1936年	第4回 ガルミッシュ大会		1次リーグ 3位（1次リーグ敗退）	
2	栗田 栄治	金山町	スキー	アメリカ 1960年	第8回 スコヴァレー大会	クロスカントリー-15km クロスカントリー-30km クロスカントリー-50km クロスカントリー-40kmリレー	45位(58分57秒0) 39位(2時間11分25秒8) 27位(3時間38分40秒6) 10位(2時間36分44秒9)	
3	柴田 国男	最上町	スキー	日本 1972年	第11回 札幌大会	クロスカントリー-15km クロスカントリー-30km クロスカントリー-4×10km 距離競走	41位(49分38秒95) 23位(1時間42分30秒83) 10位(2時間13分59秒14)	
4	早坂 毅代司	最上町	スキー	オーストリア 1976年	第12回 インスブルク大会	クロスカントリー-15km クロスカントリー-30km	50位(48分46秒93) 55位(1時間41分33秒76)	
5	海和 俊宏	最上町	スキー	アメリカ 1980年	第13回 レークプラシッド大会	アルペンスキー-男子回転	2回目途中棄権	
				ユーゴスラビア 1984年	第14回 サラエゴ大会	アルペンスキー-男子回転	29位(2分48秒78) 12位(1分43秒87) 26位(2分49秒87)	
6	佐藤 志郎	米沢市	スキー	アメリカ 1980年	第13回 レークプラシッド大会	クロスカントリー-15kmクラシック クロスカントリー-30km クロスカントリー-50km	43位(46分15秒29) 39位(1時間35秒77) 37位(2時間48分33秒02)	
7	佐藤 智	最上町	スキー	ユーゴスラビア 1984年	第14回 サラエゴ大会	クロスカントリー-15km クロスカントリー-50km クロスカントリー-4×10kmリレー	50位(46分25秒5) 47位(2時間39分43秒1) 13位(2時間06分42秒50)	
8	結城 谷行	最上町	スキー	カナダ 1988年	第15回 カルガリー大会	クロスカントリー-15km クロスカントリー-30km クロスカントリー-50km クロスカントリー-4×10km 距離競走	52位(47分08秒4) 57位(1時間37分11秒9) 39位(2時間16分24秒7) 14位(1時間51分10秒7)	
9	青木 富美子	真室川町	スキー	フランス 1992年	第16回 アルベールビル大会	クロスカントリー-5kmクラシカル クロスカントリー-15kmクラシカル クロスカントリー-30kmフリー クロスカントリーリレー クロスカントリー複合	30位(15分33秒0) 37位(48分30秒2)（スキー-44:31.5） 44位(1時間36分21秒9) 12位(1時間04分09秒3) 19位(28分44秒4)	
				ノルウェー 1994年	第17回 リレハンメル大会	クロスカントリー-5kmクラシカル クロスカントリー-15kmクラシカル クロスカントリー-30kmフリー クロスカントリー複合	26位(15分41秒9) 11位(43分01秒4) 26位(1時間32分22秒3) 16位(44分08秒4)	
				日本 1998年	第18回 長野大会	クロスカントリー-5kmクラシカル クロスカントリー-15kmクラシカル クロスカントリー-4×5kmリレー クロスカントリー複合	31位(19分04秒8) 37位(51分53秒7) 10位(58分22秒8) 29位(49分27秒1)	
10	星川 直美	尾花沢市	スキー	フランス 1992年	第16回 アルベールビル大会	クロスカントリー-5kmクラシカル クロスカントリー-15kmクラシカル クロスカントリー-30kmフリー クロスカントリーリレー クロスカントリー複合	48位(16分13秒2) 42位(49分46秒2) 42位(1時間35分29秒4) 12位(1時間04分09秒3) 34位(30分10秒8)	
11	西田 崇	山形市	スノーボード	日本 1998年	第18回 長野大会	ハーフパイプ	28位(33.4)、予選敗退	
12	高橋 涼子	真室川町	バイアスロン	日本 1998年	第18回 長野大会	7.5km 15km 4×7.5kmリレー	55位(26分34秒2) 6位入賞(56分17秒4) 14位(1時間46分23秒0)	
				アメリカ 2002年	第19回 ソルトレイクシティ大会	7.5kmスプリント 15km 4×7.5kmリレー 10kmバシユート	28位(22分58秒3) 50位(54分18秒0) 14位(1時間35分09秒8) 36位(35分20秒6)	
13	本間 真美 (進藤 真美)	尾花沢市	バイアスロン	日本 1998年	第18回 長野大会	15km 4×7.5kmリレー	29位(59分59秒3) 14位(1時間46分23秒0)	
				アメリカ 2002年	第19回 ソルトレイクシティ大会	7.5kmスプリント 15km 4×7.5kmリレー 10kmバシユート	45位(23分36秒8) 64位(59分38秒6) 14位(1時間35分09秒8) 41位(36分28秒6)	
14	加藤 条治	山形市	スピード スケート	イタリア 2006年	第20回 トリノ大会	500m	6位入賞(70秒78)、 35.59/35.19	
				カナダ 2010年	第21回 バンクーバー大会	500m	銅メダル 3位入賞 (70秒01) 34.937/35.076	
				ロシア 2014年	第22回 ソチ大会	500m	5位入賞 (69秒74) 34.966/34.77	
				韓国 2018年	第23回 平昌大会	500m	6位入賞 (34秒831)	

17. 山形県歴代オリンピック出場選手（冬季大会）②

出典：県観光文化スポーツ部調べ

15	生田 康宏	尾花沢市	スキー	イタリア 2006年	第20回 トリノ大会	アルペン、男子回転	47位(2分23秒28) 1:15.19/1:08.09	
16	曾根田 千鶴	最上町	スキー	イタリア 2006年	第20回 トリノ大会	クロスカントリー30kmフリー クロスカントリーバシュート 7.5km+7.5km	25位(1時間27分25秒8) 38位(46分45秒5)	
17	瀧澤 宏臣	米沢市	スキー	カナダ 2010年	第21回 バンクーバー大会	フリースタイル 男子スキークロス	予選26位通過 (1分15秒03) 決勝1回戦敗退 最終順位29位	
18	ウィリアムソン 師円	(山形市)	スピード スケート	ロシア 2014年	第22回 ソチ大会	5000m	26位 (6分42秒88)	山形中央高校出身
				韓国 2018年	第23回 平昌大会	1500m チームバシュート マススタート	10位 (1分46秒21) 5位入賞 11位	
19	一戸 誠太郎	(山形市)	スピード スケート	韓国 2018年	第23回 平昌大会	5000m チームバシュート	9位 (6分16秒55) 5位入賞	山形中央高校出身
				中国 2022年	第24回 北京大会	1500m 5000m マススタート	10位 (1分45秒53) 12位 (6分19秒81) 8位入賞	
20	小田 卓朗	(山形市)	スピード スケート	韓国 2018年	第23回 平昌大会	1000m 1500m	5位入賞 (1分08秒568) 5位入賞 (1分45秒44)	山形中央高校出身
				中国 2022年	第24回 北京大会	1500m	17位 (1分46秒60)	
21	鈴木 沙織	長井市	スキー	韓国 2018年	第23回 平昌大会	フリースタイル ハーフパイプ	14位	
				中国 2022年	第24回 北京大会	フリースタイル ハーフパイプ	15位	
22	斯波 正樹	山形市	スノーボード	韓国 2018年	第23回 平昌大会	パラレル大回転	27位	
23	森 重 航	(山形市)	スピード スケート	中国 2022年	第24回 北京大会	500m 1000m	銅メダル 3位入賞 (34秒49) 16位	山形中央高校出身
24	小坂 凜	(山形市)	スピード スケート	中国 2022年	第24回 北京大会	マススタート	出場なし	山形中央高校出身
25	尾崎 光輔	尾花沢市	バイアスロン	中国 2022年	第24回 北京大会	混合リレー 20km 10kmスプリント 12.5km追い抜き	18位 82位 (58分37秒9) 44位 (26分24秒1) 51位 (46分56秒6)	

18. 山形県歴代パラリンピック出場選手

出典：県健康福祉部調べ

夏季大会：11名

メダル数 金：0 銀：1 銅：1

氏名	出身地	競技名	開催国：西暦	大会名	種目名・記録
1 杉浦文明	山形市	陸上競技	日本：1964年	第2回東京大会	・円盤投 記録なし ・槍投 記録なし
2 阿部健治	鶴岡市	陸上競技	アメリカ：1984年	第7回ニューヨーク大会	・100m 第12位 ・400m 予選敗退 ・5000m 第11位 ・立三段跳 第9位 ・走幅跳 記録なし
3 加藤則夫	上山市	柔道	韓国：1988年	第8回ソウル大会	71kg級 第2位
4 本橋昭人	河北町	陸上競技	スペイン：1992年	第9回バルセロナ大会	・走高跳 第3位 ・マラソン 第8位
		陸上競技	アメリカ：1996年	第10回アトランタ大会	マラソン 第6位
		自転車	オーストラリア：2000年	第11回シドニー大会	・タンデム個人追い抜き 予選敗退 ・タンデムスプリント 第7位 ・タンデムタイムトライアル 第12位 ・タンデムロードレース 第15位
5 菊地富蔵	米沢市	馬術	オーストラリア：2000年	第11回シドニー大会	・個人規定 13位 ・個人自由演技 19位
6 栗野幸智恵 <small>竹井 幸智恵 (旧姓：栗野)</small>	山形市	シッティングバレーボール	中国：2008年	第13回北京大会	シッティングバレーボール 第8位
			イギリス：2012年	第14回ロンドン大会	シッティングバレーボール 第7位
			日本：2021年	第16回東京大会	シッティングバレーボール 第8位
7 東海林和幸	山形市	車椅子バスケットボール	イギリス：2012年	第14回ロンドン大会	車椅子バスケットボール 第9位
8 斎藤紳一	鶴岡市	アーチェリー	イギリス：2012年	第14回ロンドン大会	アーチェリー 第9位
9 東海林大	山形市	水泳	日本：2021年	第16回東京大会	・100mバタフライ 予選敗退 ・混合4×100mリレー 第4位 (アジア新) ・200m個人メドレー 第4位
10 太田渉子	尾花沢市	テコンドー	日本：2021年	第16回東京大会	・女子58kg超級 第7位
11 齋藤元希	大石田町	水泳	日本：2021年	第16回東京大会	・100mバタフライ 予選敗退 ・100m背泳ぎ 第8位 ・400m自由形 予選敗退 ・200m個人メドレー 予選敗退 ・混合4×100mリレー 第5位 (アジア新)
			パリ：2024年	第17回パリ大会	・100mバタフライ 予選敗退 ・100m背泳ぎ 予選敗退 ・400m自由形 予選敗退 ・200m個人メドレー 第8位 ・混合4×100mリレー 第6位 ・100m平泳ぎ 予選敗退

冬季大会：2名

メダル数 金：0 銀：3 銅：3

氏名	出身地	競技名	開催国：西暦	大会名	種目名・記録
1 奥山京子	天童市	アイススレッジスピードレース	日本：1998年	第7回長野大会	・100m 第3位 ・500m 第3位 ・1,000m 第2位 ・1,500m 第2位
2 太田渉子	尾花沢市	ノルディックスキー	イタリア：2006年	第9回トリノ大会	・バイアスロン 12.5km 第3位 ・バイアスロン 7.5km 第6位 ・クラシカル 10.0km 第9位 ・リレー 3×2.5km 第5位
		バイアスロン	カナダ：2010年	第10回バンクーバー大会	・パシュート 3km 第7位 ・12.5km 第11位
		クロスカントリースキー	カナダ：2010年	第10回バンクーバー大会	・スプリントクラシカル 1km 第2位 ・クラシカル 5km 第11位 ・リレー 3×2.5km 第5位
		バイアスロン	ロシア：2014年	第11回ソチ大会	6km 第6位
		クロスカントリースキー	ロシア：2014年	第11回ソチ大会	・スプリントフリー 第8位 ・フリー5km 第10位 ・ミックスリレー4×2.5km 第7位

19. 山形県スポーツ推進条例①

○山形県スポーツ推進条例

平成31年3月15日山形県条例第54号

スポーツは、「する」ことにより心身の健康増進や体力の向上をもたらし、「みる」、「きく」ことにより夢や感動や活力を人々に与え、「ささえる」ことにより一体感や地域への誇りを醸成するものであり、個人の心身に対する効用はもとより、地域振興にも大きく寄与するものである。また、青少年はスポーツによって人格形成に必要な様々なことを学び、生涯にわたってスポーツに関わることで多くのものを得られる。

このようなスポーツの持つ力を最大限に活用して、障がいの有無、性別、年齢、体力、住む地域などに関わりなく、県民誰もがスポーツに親しみ、それによって心身共に健康な人づくり、スポーツによる交流促進、活力ある地域づくりを進める必要がある。そのためには、全ての県民が、幸福を追求するために重要な要素であるスポーツ生活を享受する権利が保障されるよう、環境の整備が求められる。

我が県は、県民に親しまれるスポーツ県民歌を有し、豊富な雪、蔵王や出羽三山といった山岳、最上川や日本海といった水環境など、すばらしい自然とスポーツに最適な環境を誇り、これを生かしたスポーツが盛んである。こうした本県の特性を生かし、スポーツを通じて健康で豊かな県民生活と活力ある地域社会を実現することを目指して、この条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、スポーツの推進に関し、基本理念を定め、県の責務並びに県民、事業者、スポーツ団体及びスポーツ関係者の役割を明らかにするとともに、スポーツの推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって県民の心身の健康の増進及び健康寿命の延伸を図り、健康で豊かな県民生活及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) スポーツ 個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動（散歩、ダンス、健康のために行う体操、ハイキング、サイクリングその他これらに類するものを含む。）をいう。
- (2) スポーツ活動 スポーツを行い、観戦し、若しくはスポーツを行う者を指導し、又はスポーツの競技会その他の催しの運営に携わる活動をいう。
- (3) スポーツ団体 スポーツの振興のための事業を行うことを主たる目的とする団体をいう。
- (4) スポーツ関係者 スポーツ選手、スポーツの指導者、スポーツの競技会その他の催しの運営に携わる者その他スポーツの推進に関する活動を行う者をいう。

(基本理念)

第3条 スポーツの推進は、次に掲げる事項を旨として行われなければならない。

- (1) 県民がスポーツ活動の主体であるという認識の下に、県民の自主的な参加が促進されること。
- (2) 生涯にわたって身近にスポーツに親しむことにより、心身の健康の保持及び増進が図られること。
- (3) 幼児期から青年期にかけて、青少年の心身の健全な発達並びに体力及び運動に関する能力の向上を図るとともに、豊かな人間性が育まれるよう配慮すること。
- (4) 全ての県民が、その性別、年齢又は障がいの種類及び程度にかかわらず、スポーツに親しむことのできる環境を整えるよう配慮すること。
- (5) 本県のスポーツ選手が、スポーツの競技会において優秀な成績を収め、県の発展に寄与することができるよう、スポーツに関する競技水準（以下「競技水準」という。）の向上が図られること。
- (6) 青少年をはじめとする県民が、その生活を営む地域の差異にかかわらず、スポーツ活動に参加する機会が確保されること。
- (7) 本県の豊かな自然環境及び観光資源の活用が図られること。
- (8) スポーツを通じて世代間及び地域間の交流並びに国際交流の基盤が形成され、更にその交流が促進されることにより、地域の活性化が図られること。
- (9) スポーツを行う者の安全の確保が図られるとともに、誠実、健全及び高潔な精神の下にスポーツに関するあらゆる活動が実施されること。

19. 山形県スポーツ推進条例②

(県の責務)

第4条 県は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、スポーツの推進に関する施策を総合的に策定し、及び計画的に実施する責務を有する。

2 県は、前項の施策を策定し、及び実施するに当たっては、県民、事業者、スポーツ団体、スポーツ関係者、学校及び健康づくり関係者（医療機関、検診機関その他の県民の健康づくりに関係する者をいう。以下同じ。）との連携に努めるものとする。

(県民及び事業者の役割)

第5条 県民及び事業者は、基本理念にのっとり、スポーツ活動を積極的に行うとともに、スポーツの推進に主体的に取り組むよう努めるものとする。

(スポーツ団体及びスポーツ関係者の役割)

第6条 スポーツ団体及びスポーツ関係者は、基本理念にのっとり、スポーツの推進に主体的に取り組むよう努めるとともに、県、市町村、事業者、他のスポーツ団体、他のスポーツ関係者、学校及び健康づくり関係者との協働に努めるものとする。

(市町村との連携)

第7条 県は、スポーツの推進に関する施策の実施に当たっては、市町村との連携を図るとともに、市町村がスポーツの推進に関する施策を策定し、及び実施するための助言その他の必要な協力を行うものとする。

第2章 スポーツ推進計画

第8条 県は、スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための計画（以下「スポーツ推進計画」という。）を策定するものとする。

2 県は、スポーツ推進計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、山形県スポーツ推進審議会の意見を聴かなければならない。

3 県は、スポーツ推進計画を策定し、又は変更したときは、速やかに公表するものとする。

4 県は、スポーツ推進計画の進捗状況について毎年度公表し、県民の意見を踏まえつつ、スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するよう努めるものとする。

第3章 スポーツの推進に関する基本的施策

(生涯にわたるスポーツ活動の推進)

第9条 県は、全ての県民が生涯にわたってその体力、年齢、適性、健康状態等に応じて身近にスポーツに親しみ、かつ、スポーツを楽しむことができるよう、スポーツ活動を行う機会の提供、スポーツ活動に参加しやすい環境の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、スポーツ活動を通じた心身の健康の保持及び増進を図り、健康寿命の延伸を図るため、日常生活において運動を行う習慣の定着に向けた取組の促進、スポーツ活動を通じた心身の健康づくりに関する適切な情報の提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

(青少年のスポーツ活動の推進)

第10条 県は、青少年の心身の健全な発達並びに体力及び運動に関する能力の向上を図るため、幼少期から行うスポーツ活動の充実に向けた取組の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

(学校におけるスポーツ活動の推進)

第11条 県は、学校（大学を除く。）におけるスポーツ活動の充実及び安全の確保を図るため、必要な環境の整備及び体育に関する教員の資質の向上に努めるとともに、地域におけるスポーツ団体及びスポーツの指導者の活用の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

(障がい者のスポーツ活動の推進)

第12条 県は、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツ活動を行うことができるよう、障がいの種類及び程度に応じたスポーツ活動を行う機会の提供、障がい者の利用しやすい施設及び環境の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

(男女間の格差のないスポーツ環境の整備等)

第13条 県は、男女を問わずスポーツに親しむことのできる施設及び環境の整備を図るとともに、スポーツにおいて性別を理由とする格差を生じさせないような県民の意識の向上その他の必要な施策を講ずるものとする。

19. 山形県スポーツ推進条例③

(競技水準の向上)

第14条 県は、本県のスポーツ選手がオリンピック競技大会、パラリンピック競技大会その他の国際的な規模のスポーツ競技会又は全国的な規模のスポーツの競技会において優秀な成績を収められるようにするとともに、プロスポーツの選手を養成するため、スポーツ選手及びスポーツの指導者の計画的な育成その他の本県の競技水準の向上を図るために必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、本県のスポーツ選手が、スポーツの競技会においてその能力を最大限に発揮することができるよう、スポーツ選手のための環境の整備、スポーツに関する医学的又は科学的知見の活用促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

(安全の確保)

第15条 県は、スポーツにおける事故の防止その他安全の確保を図るため、スポーツにおける心身の健康の保持及び安全の確保に関する知識の普及、スポーツ施設の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

(人材の確保等)

第16条 県は、県民のスポーツ活動の充実を図るため、スポーツの指導者その他のスポーツ活動に携わる人材の確保、育成及び活用に関し必要な施策を講ずるものとする。

(スポーツ施設の整備等)

第17条 県は、市町村、事業者及びスポーツ団体との適切な役割分担の下に連携し、計画性を持ってスポーツ施設の整備及び活用を図るものとする。

(地域間の格差のないスポーツ活動の推進)

第18条 県は、県民がその生活を営む地域の差異にかかわらず、等しくスポーツ活動に親しむことができるよう、地域におけるスポーツ団体及びスポーツの指導者の活用促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

(自然環境等を生かしたスポーツ活動の推進)

第19条 県は、本県の豊かな自然環境及び観光資源並びにそれらを利用したスポーツ施設を有効かつ効果的に活用することにより、地域の特性を生かしたスポーツ活動の推進を図るため、当該スポーツ活動についての情報の発信その他の必要な施策を講ずるものとする。

(スポーツ活動を通じた地域の活性化)

第20条 県は、スポーツ活動を通じて世代間及び地域間の交流並びに国際交流を促進し、地域の活性化を図るため、当該地域の住民が主体的に運営するスポーツ団体への支援、プロスポーツの活用、スポーツによる交流人口の拡大その他の必要な施策を講ずるものとする。

(誠実、健全及び高潔なスポーツ活動の推進)

第21条 県は、誠実、健全及び高潔な精神をもってスポーツ活動に取り組むという県民の意識の維持及び向上が図られるよう、必要な環境の整備、県民の意識の啓発その他の必要な施策を講ずるものとする。

(調査研究及び情報提供)

第22条 県は、スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、スポーツに関する調査研究を行うとともに、広く県民に対してスポーツに関する情報の提供を行うものとする。

(顕彰)

第23条 県は、スポーツの競技会で優秀な成績を収めたもの及びスポーツの発展に寄与したものを顕彰するものとする。

(財政上の措置)

第24条 県は、スポーツの推進に関する施策を推進するために、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 この条例の施行の際現に策定されているスポーツの推進に関する計画であって、スポーツ推進計画に相当するものは、第8条第1項の規定により策定されたものとみなす。

20. 山形県スポーツ推進審議会委員

出典：山形県スポーツ推進審議会

任期：令和6年4月1日から令和8年3月31日まで

氏名	所属役職名
◎阿部 弘生	仙台大学体育学部現代武道学科 准教授
池田 めぐみ	一般社団法人ヤマガタアスリートラボ 代表理事
板垣 由紀子	最上町教育委員会教育文化課 課長
井上 聡子	さとこ女性クリニック 院長
奥山 雅信	公益財団法人山形県スポーツ協会 常務理事兼事務局長
金塚 洋輔	K-project 代表兼監督
栗田 和真	山形県中学校体育連盟 会長 (山形市立第六中学校 校長)
黒沼 祐蔵	山形県障がい者スポーツ協会 常務理事
佐藤 勝子	山形市立楯山小学校 校長
高橋 美保	西川町スポーツ推進委員
早坂 裕子	山形県スポーツ少年団 本部委員
星川 麻奈美	特定非営利法人とざわスポーツクラブ アシスタントクラブマネージャー
細谷 尚寿	山形県高等学校体育連盟 会長 (山形県立山形中央高等学校 校長)

◎：会長 (五十音順・令和6年4月1日現在・敬称略)



山形県

観光文化スポーツ部スポーツ振興課

〒990-8570 山形県山形市松波2-8-1

電話：023-630-2868（直通）FAX：023-624-9908